

第3次静岡市食育推進計画における重点事業実施計画個票

第3次計画策定時の状況

事業名	しらすを食べる会
担当課・団体	清水漁業協同組合
基本方針	「わ」の食育推進
基本施策	(9)地産地消の推進
数値目標	(13)地元(静岡市)で生産されたものを日頃から購入するようにしている市民の割合を30%以上にする
取組概要	生しらす(不漁時は釜揚げしらす)の提供
取組目的	より多くの方にしらすなどの静岡市水産物の良さを知ってもらい、消費者と生産者を結び付け、地元の水産物に触れる機会を増やす
現状・課題	（現状） 近年しらす漁不漁が続いている為、魚価高騰の為原魚確保が困難。 （課題） しらすの好不漁があり、生しらすが提供できるか不透明

令和5年度事業計画（第3次静岡市食育推進計画）

[illegible]

平成30～令和5年度の取組の方向性								
方針			継続					
工 程	年度	内容	H30	R1	R2	R3	R4	R5
	計画	イベントの開催	◎実施	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続
	実績		◎	◎	×	×	×	◎
	凡例	△調査・検討 ○一部実施 ◎実施 ⇒継続 ●実績なし ×中止						
評価指標／年度			H30	R1	R2	R3	R4	R5
①	イベント開催数		1回	1回	—	—	—	1回
②								
③								
④								

第3次静岡市食育推進計画における重点事業実施計画個票

第3次計画策定時の状況

事業名	地産地消活動
担当課・団体	清水農業協同組合
基本方針	「わ」の食育推進
基本施策	(9)地産地消の推進
数値目標	(13)地元(静岡市)で生産されたものを日頃から購入するようにしている市民の割合を30%以上にする
取組概要	地場産品の販売
取組目的	地産地消の推進、生産者と消費者の交流
現状・課題	（現状） 各地域女性組織を中心に活動している （課題）

令和 5 年度事業計画（第 3 次静岡市食育推進計画）

目標	令和5年度目標	(学習目標) 組織ごと来店客との交流を通じて地域の消費者が求める農産物が何かを知る。 (行動目標) 研修会への参加。 (環境目標) 地域の消費者へ食料の安定供給と地産地消の増進を図る。 (結果目標) 継続して今後も13組織で販売する。
	令和5年度結果目標	静岡市で生産されたものを今後も継続して13組織で販売する

令和 5 年度の取組方針	継続実施
--------------	------

取組内容（予定）	13組織
----------	------

評価	令和5年度評価	企画評価		計画は適正に立てられた。
		経過評価	①事業が計画どおりに実施されたか	計画通りに実施できた。
			②参加者は内容を理解し満足したか	
			③課題や改善点	生産者の高齢化・新規出荷者獲得困難によるメンバーの減少。 食品衛生法改正の経過措置期間終了により、加工品出荷者の減少。
		影響評価	学習目標が達成されたか	
			行動目標が達成されたか	
			環境目標が達成されたか	
		結果評価		数値目標の達成度を調査する取組みを行っていない。
	令和5年度結果評価		【最終的に達成をねらった目標がどの程度達成できたかを明記してください】 —	

[illegible]

平成30～令和5年度の取組の方向性								
方針			継続					
工 程	年度	内容	H30	R1	R2	R3	R4	R5
	計画	地場産品の販売	◎実施	◎実施	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続
	実績	地場産品の販売	◎実施	◎実施	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続
	凡例	△調査・検討 ○一部実施 ◎実施 ⇒継続 ●実績なし ×中止						
評価指標／年度			H30	R1	R2	R3	R4	R5
①								
②								
③								
④								

平成30～令和5年度の取組の方向性								
方針			継続／見直し・改善					
工 程	年度	内容	H30	R1	R2	R3	R4	R5
	計画	農作業体験 料理教室	実施	実施	実施	⇒継続	⇒継続	⇒継続
	実績	農作業体験 料理教室	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	凡例	△調査・検討 ○一部実施 ◎実施 ⇒継続 ●実績なし ×中止						
評価指標／年度			H30	R1	R2	R3	R4	R5
①	農作業体験 料理教室		10回	10回	8回	7回	7回	7回
②								
③								
④								

第3次静岡市食育推進計画における重点事業実施計画個票

第3次計画策定時の状況

事業名	食育応援団
担当課・団体	健康づくり推進課
基本方針	「わ」の食育推進
基本施策	(11)食文化の継承
数値目標	(15)地域や家庭で受け継がれた伝統的な料理や作法などを継承している市民の割合を35%以上にする
取組概要	食育に関する知識や経験を持っている個人、団体、企業を食育応援団として講師登録をし、食育に取り組む市民からの依頼で講師を紹介する
取組目的	・本市の豊かな食材を用いた郷土、伝統料理など食文化を次世代につなげられるよう推進を図る ・若い世代から生活習慣・食習慣の正しい知識を学び、実践につなげる
現状・課題	（現状） ・年々利用者数は増えており、利用者の満足度は高い （課題） ・講師の登録数が少なく、依頼数が増えると負担が大きくなる ・講師料無料で活動しているため、講師の負担が大きい

令和5年度事業計画（第3次静岡市食育推進計画）

目 標	令和 5 年度目標	（学習目標）市民の継続的な食に関する知識を得る機会を増やす。 （行動目標）参加者が自身の食生活等に活かしていきたいとの感想をもつ。 （環境目標）食育応援団の活動について市のHPやTwitter等で紹介したり、応援団パンフレットを広く配布し、市民へ周知をする。 （結果目標）食育応援団派遣回数 50件以上
	令和 5 年度結果目標	応援団登録数35件以上 応援団利用数85件以上
令和 5 年度 of 取組方針		令和5年度の食育応援団のパンフレットは目を引くようなデザインにリニューアルした。市民の食育活動につながるよう、食育応援団についてPRしていく。 食育応援団登録数が令和5年度はかなり減ったため、企業・団体等に働きかけていく。
取組内容（予定）		・食育応援団パンフレット作成及び配布 ・応援団利用件数10件以上

評価	令和5年度評価	企画評価		専門知識のある講師を市民が開催する教室・講座へ派遣し、講話や食に関する体験（調理実習）をする機会となり、市民の食育活動を支援することができた。
		経過評価	①事業が計画どおりに実施されましたか	依頼に対しては希望に沿った講師を派遣できるように調整することができた。
			②参加者は内容を理解し、満足したか	受講後の「食育活動報告書」より、内容を理解し、自身の生活において実践していきたいとの声が多く、満足度が高かった。
			③課題や改善点	食育応援団の依頼数は増加傾向にあるが、登録講師は減少している。より幅広い食育活動の支援のために新しい講師の募集が必要。
		影響評価	学習目標が達成されたか	受講後の「食育活動報告書」より、「大変勉強になった」「よい機会となった」との声が多く、食に関する意識が高まった。
			行動目標が達成されたか	受講後の「食育活動報告書」より、「生活リズムを見直すきっかけとなった」など、自身の食生活の改善等につなげることができた。
			環境目標が達成されたか	21団体・個人の登録講師の中から、市民の希望にあった講師を調整し、派遣することができた。
	結果評価		目標には達しなかったが、45回派遣することができた。（目標の9割達成）	
	令和5年度結果評価			【最終的に達成をねらった目標がどの程度達成できたかを明記してください】 食育応援団の派遣回数はコロナ前に比べると減少はしているが、参加者の満足度は高く、継続して依頼をしてくれる団体が多い。今後も登録講師を増やしながら、市民の幅広い食育活動を支援する。

[illegible]

平成30～令和5年度の取組の方向性								
方針			充実					継続
工 程	年度	内容	H30	R1	R2	R3	R4	R5
	計画	パンフレットの配布・周知	◎実施	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続
	実績	パンフレットの配布・周知	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	凡例	△調査・検討 ○一部実施 ◎実施 ⇒継続 ●実績なし ×中止						
評価指標／年度			H30	R1	R2	R3	R4	R5
①	応援団登録数		25	25	25	26	27	21
②	応援団利用数		66	58	23	40	51	45
③								
④								

第 3 次静岡市食育推進計画における重点事業実施計画個票													
第 3 次計画策定時の状況													
事業名		お茶の美味しい入れ方教室											
担当課・団体		農業政策課											
基本方針		「わ」（和・輪・環）の食育の推進											
基本施策		(11)食文化の継承											
数値目標		(16)茶葉から入れた緑茶を飲む市民の割合を60%以上にする											
取組概要		静岡市内の小学５・６年生を対象とした、日本茶インストラクターによるお茶の美味しい入れ方と「お茶のまち静岡市」について学ぶ授業を実施する											
取組目的		お茶の入れ方を学ぶことを通じてお茶に対する味覚を育み、お茶を中心とした食育を図るとともに、本市基幹産物であるお茶の啓蒙・消費促進を図る											
現状・課題		（現状） 平成14年度にスタートし（実施校17校）、平成30年度時点では市内小学校80校で実施した。 年度当初に実施意向調査を行い、希望する小学校に対して事業を実施する。 （課題） 授業のカリキュラムの関係で時間が取れず、実施できない小学校が多数ある。											
令和 5 年度事業計画（第 3 次静岡市食育推進計画）													
目標		令和 5 年度目標		（学習目標）授業を受けた児童及び保護者がお茶の美味しい入れ方と静岡市の歴史や文化を理解する。 （行動目標）授業を受けた児童が、お茶に関心を持つことで、家庭でお茶を飲む機会が増える。 （環境目標）授業を受けた児童と保護者にとってお茶が親しいものになる。 （結果目標）家計調査において、二人以上の世帯における茶葉購入量が2,400gになる。									
		令和 5 年度結果目標		家計調査において、二人以上の世帯における茶葉購入量が2,400gになる。									
令和 5 年度の取組方針				静岡市内小学校全87校へ希望調査を取り、お茶の美味しい入れ方教室を希望するすべての市内小学校で実施。									
取組内容（予定）				日本茶インストラクターを講師として派遣し、実施希望のあった学校でお茶の美味しい入れ方教室を実施する。									
評価	令和 5 年度評価	企画評価		各学校からの実施内容の意向を、受託者である日本茶インストラクター協会と協議し、事業を実施できた。									
		経過評価	①事業が計画どおりに実施されたか	実施意向調査を行い、希望する市内小学校（66校）に対して事業を実施した。									
			②参加者は内容を理解し満足したか	教師用、保護者用のアンケートの回答の結果、満足しているとの回答が多かった。									
			③課題や改善点	満足度を数値化して統計できるアンケートの作成。									
		影響評価	学習目標が達成されたか	多くの児童が静岡市のお茶について興味・関心を示しており、授業内での質問が多数あったことから、お茶の美味しい入れ方や静岡市の歴史・文化を理解しようとする機運を高めることができた。									
			行動目標が達成されたか	授業を受けた全4,158人の児童に、復習用の一煎バックを渡すことにより、家庭でお茶を入れる機会を創出することができた。									
			環境目標が達成されたか	復習用の一煎バックを用いて家庭でお茶を入れる機会を創出することで、児童と保護者がお茶に親しみを感じる一助とすることができた。									
	結果評価		家計調査において、二人以上の世帯における茶葉購入量は1,217gであり、目標を下回った。										
令和 5 年度結果評価		【最終的に達成をねらった目標がどの程度達成できたかを明記してください】 茶葉購入量は目標を下回ったが、支出金額は日本で、単価の高い美味しいお茶を飲む習慣が根付いていると考えられる。お茶の正しい入れ方を学ぶことで、将来的な消費者層の下支えに貢献した。											
投入コスト				予算額		3,137 千円		決算額		2,782 千円			
対象者（●は該当、○は保護者）				0～5 歳	6～11歳	12～19 歳	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70歳以上	その他(具体的)
					●	●							

平成30～令和 5 年度 of 取組の方向性								
方針			継続					
工 程	年度	内容	H30	R1	R 2	R 3	R 4	R 5
	計画	お茶の美味しい入れ方教室の実施	◎実施	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続
	実績	お茶の美味しい入れ方教室の実施	◎実施	◎実施	◎実施	◎実施	◎実施	◎実施
	凡例	△調査・検討 ○一部実施 ◎実施 ⇒継続 ●実績なし ×中止						
評価指標／年度			H30	R1	R 2	R 3	R 4	R 5
①	お茶の美味しい入れ方教室の実施		80校	73校	希望のあった小学校での実施	希望のあった小学校での実施	希望のあった小学校での実施	希望のあった小学校での実施
②								
③								
④								

第4次静岡市食育推進計画 基本施策別掲載事業一覧

資料4-1

◎:目標数値を達成する上で最も影響のある事業 ☆:第4次計画から掲載した事業

基本施策	◎:重点事業 ☆:新規事業	No.	主な事業名	担当課・団体
(1)栄養バランスに配慮した食生活の実践 全7事業		1	あそび、子育ておしゃべりサロン	子ども未来課
	☆	2	ヘルシー食deブランディング飲食関係者向け専門講座	健康づくり推進課
	◎	3	元気で長生き栄養講座	葵・駿河・清水区役所健康支援課
		4	健康まつりにおける栄養相談	葵・駿河・清水区役所健康支援課
		5	健康まつりへの参加	静岡市食生活改善推進協議会
		6	しずおかアクティ部	静岡県給食協会
		7	健康相談(随時)	葵・駿河・清水区役所健康支援課
(2)適正体重や減塩等に配慮した食生活の実践 全7事業	◎	8	食生活サポート講座	葵・駿河・清水区役所健康支援課
		9	ヘルスアップ食事相談	葵・駿河・清水区役所健康支援課
	◎	10	生活習慣病予防教室	静岡市食生活改善推進協議会
		11	高齢者向け教室	静岡市食生活改善推進協議会
		12	骨と体に良い料理教室	静岡市食生活改善推進協議会
	☆	13	市場料理教室	中央卸売市場
		14	栄養士研修会	静岡県給食協会
(3)食品の安全・安心に関する知識の習得 全10事業	◎	15	食の安全教室	食品衛生課
		16	食の安全・安心に関するリスクコミュニケーション	食品衛生課
		17	給食施設研修事業	食品衛生課
		18	栄養成分表示促進事業	食品衛生課
		19	「食品衛生月間」街頭広報活動	静岡市食品衛生協会
		20	「静岡食協ニュース」の編集・発行(年4回)	静岡市食品衛生協会
		21	地域のお祭り等の「バザー等開催届」提出団体への消毒薬の提供	静岡市食品衛生協会
		22	衛生講習会	静岡県給食協会
		23	見学研修会	静岡県給食協会
		24	調理師資質向上対策事業	静岡県調理師協会
(4)よく噛んで食べることや楽しく食べる経験を通じた食生活の推進 全12事業	◎	25	歯周病検診	健康づくり推進課
	☆	26	口腔機能向上事業	健康づくり推進課
	☆	27	1歳頃のむし歯予防事業	健康づくり推進課
	☆	28	幼児期の歯科口腔保健支援事業	健康づくり推進課
	☆	29	学童期・思春期の歯科口腔保健支援事業	健康づくり推進課
	☆	30	歯と口の健康に関する普及啓発事業	健康づくり推進課
		31	妊婦歯科健診	子ども家庭課
		32	歯と口の健康	静岡市食生活改善推進協議会
		33	おやこ食育教室	葵・駿河・清水区役所健康支援課
	◎	34	楽しく子育て応援教室	静岡市食生活改善推進協議会
		35	サマーキャンプ	静岡市子ども会連合会
	☆	36	シニアカフェ	静岡市食生活改善推進協議会
(5)食育の普及啓発・情報発信 全12事業	◎	37	公立こども園における食育推進事業	こども園課
		38	保育フェアでの食育展示	こども園課
	◎	39	食に関する情報発信	学校給食課
		40	食の安全・安心HP「たべしずねっと」	食品衛生課
		41	食育ホームページ	健康づくり推進課
		42	しずまえ新聞の発行	水産振興課
		43	啓発資料の作成	学校給食課
		44	食の安全・食育に関する資料の展示	中央図書館
		45	静岡市版食事バランスガイド	健康づくり推進課
		46	食育の日・食育月間の普及啓発	健康づくり推進課
		47	食育の日キャンペーン	静岡市食生活改善推進協議会
		48	食育講習会	学校給食課

(6)規則正しい食習慣の実践 全10事業	◎	49	食に関する指導	学校給食課
	◎	50	しずおかカラダにeat75	健康づくり推進課
	◎	51	栄養素について学ぶ	静岡市私立幼稚園連合会
		52	給食参観	静岡市私立幼稚園連合会
		53	マタニティ教室における栄養士講話	葵・駿河・清水区役所健康支援課
		54	0歳児の育児相談、6か月児育児相談における栄養相談	葵・駿河・清水区役所健康支援課
		55	1歳6か月児健康診査における栄養相談	葵・駿河・清水区役所健康支援課
		56	3歳児健康診査における栄養相談	葵・駿河・清水区役所健康支援課
		57	離乳食の作り方教室	葵・駿河・清水区役所健康支援課
		58	食育活動	子ども未来課
(7)環境に配慮した食生活の実践 全6事業	◎	59	食品ロス削減対策事業	ごみ減量推進課
		60	スマートクッキング	静岡市食生活改善推進協議会
		61	第4次食育推進基本計画の重点課題の解決と目標達成のための取組	関東農政局
	☆	62	エシカル消費推進のための講座・セミナーの開催	しずおか市消費者協会
	☆	63	エシカル消費の啓発	生活安全安心課
	☆	64	静岡市グリーン農業推進事業補助金	農業政策課
(8)地産地消の推進 全13事業	◎	65	地場産物を取り入れた献立の提供	学校給食課
		66	農水産物の情報発信	農業政策課・水産振興課
		67	静岡市認定農業者協会「秋・冬・春の市」	静岡市認定農業者協会 農業政策課
		68	産業フェアしずおか	農業政策課・水産振興課・森林政策課
		69	しずおか畜産まつり	静岡市農業協同組合
		70	アグリフェスタしみず	清水農業協同組合
		71	地産地消活動(商店街・店頭販売)	静岡市農業協同組合
	◎	72	地産地消活動(商店街・店頭販売)	清水農業協同組合
		73	地元の海産物(しらすをメインに食べてみよう)	清水漁業協同組合
	◎	74	しらすを食べる会	清水漁業協同組合
		75	用宗漁港まつり	清水漁業協同組合
		76	清水港マグロまつり	清水みなと振興課
	☆	77	ガストロノミーウォーキング事業補助金	観光政策課
	◎	78	生消菜言倶楽部	静岡市農業協同組合
(9)農林漁業生産者と消費者との交流 全11事業		79	アグリチャレンジパーク蒲原活用事業	農業政策課
		80	親子しいたけ種駒打ち教室	森林政策課
		81	親子食農体験「ソレイユくらぶ」	静岡市農業協同組合
		82	出張加工品づくり教室	静岡市農業協同組合
		83	農業体験教育事業	静岡市農業協同組合
		84	出前講座	清水農業協同組合
		85	農業体験教育事業	清水農業協同組合
		86	体験学習	静岡市私立幼稚園連合会
		87	しずまえ漁業見学ツアー	水産振興課
		88	タタミ干し作り体験と体験乗船	清水漁業協同組合
(10)食文化の継承 全10事業	◎	89	食育応援団	健康づくり推進課
		90	食文化・食育普及啓発	静岡県調理師協会
		91	調理技術研修会	静岡県給食協会
	◎	92	お茶の美味しい入れ方教室	農業政策課
		93	お茶育	静岡市農業協同組合
		94	緑茶を飲もう	静岡市私立幼稚園連合会
		95	ライフステージに応じた各種食育推進講座	生涯学習推進課
		96	都市山村交流センターの活用	中山間地振興課
		97	じまんの「しよく」フェスタ	静岡市農業協同組合
	☆	98	食育ボランティア人材養成講座	健康づくり推進課

※全98事業

A	B	C	D	E	F	G	H										I	J	K	L	M	N	O	P	Q		R			
基本 施策	主 な 目 標	事 業 番 号	課 名 団 体 名	事 業 の 概 要			対 象 者 (●:本人 ◎:保護者)							第4次計画策定時の状況			令和6年度事業計画		令和6年度事業実績			令和7年度事業計画								
				重 点 事 業	事 業 名	事 業 内 容	0 5 歳	6 5 1 1 歳	1 2 5 1 9 歳	2 0 5 2 9 歳	3 0 5 3 9 歳	4 0 5 4 9 歳	5 0 5 5 9 歳	6 0 5 6 9 歳	7 0 歳 以 上	現 状・課 題	令 和6～12年度 の 取 組 の 方 向 性	令 和12年度 末 目 標 値	取 組 方 針	実 施 計 画 (評 価 指 標)	実 績 (成 果)	評 価	評 価 の 理 由 と 課 題	取 組 方 針		実 施 計 画 (評 価 指 標)				
(1) 栄養 バ ラン ス に 配 慮 し た 食 生 活 の 実 践	○主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている市民の割合の増加	1	子ども未来課		あそび・子育て おしゃべりサロ ン	公立こども園に栄養士を派遣し、来園した地域の未就園児とその保護者に講座・相談等を実施する	●◎								栄養士の派遣について全公立こども園に調査を行い、希望園へ派遣を行っている。未実施園への働きかけが課題である。	公立こども園への栄養士派遣を継続し行う。全園での実施を目指すとともに、周知方法を検討し、参加者の増加を図る。	全公立こども園で実施年間参加者500人以上	公立こども園への栄養士派遣を継続し行う。全園での実施を目指すとともに、周知方法を検討し、参加者の増加を図る。	35園で実施年間参加者420人以上											
		2	健康づくり推進課		ヘルシー食de プランディング 飲食関係者向け 専門講座	飲食の提供を行うお店の経営者やシェフが「食と健康」をテーマに、ヘルシーメニューの「型」づくりの手法、マーケティング等を学び、食に新たな付加価値をつける支援を行います。	●◎	●◎	●	●	●	●	●	●	●	飲食店等を対象とした食育事業が少ない中、市民の外食・中食に関する利用は増加傾向である。市民が健康を意識したメニュー等の選択ができる食環境作りが課題である。	食や健康への無関心層や自宅で料理をする時間がない働き世代等を対象に自然に健康になれる食環境作りを目的に取り組んでいく。飲食店においても食と健康を意識したヘルシーメニュー作りを実践する店舗や利用する市民を増やしていく。	ヘルシー食deプランディング飲食関係者向け専門講座を開催 ヘルシーメニューを提供する店舗の増加	令和6年度はカロリーを気にせず食べることができるメニュー等の考案に向け、講座を開催する。 令和5年度に考案した「腸活メニュー」については広く周知していく。	ヘルシー食deプランディング飲食関係者向け専門講座を開催 ヘルシーメニューを提供する店舗の増加										
		3	葵・駿河・清水区役所健康支援課	○	元気で長生き栄養講座	低栄養予防についての講話、調理実習、試食(65歳以上を対象)								●	●	参加者アンケートより理解度・満足度が高く、低栄養予防に関する知識の普及につながっている。また、試食や調理体験を行うことにより共食の場となっている。参加者の少ない回もあり、参加者の確保が課題である。	バランスの取れた食事についての知識の普及や、簡単料理の紹介により実践につながるよう支援していく。併せて共食の推進に取り組む。	教室アンケート 参加者の理解度80%以上 満足度80%以上	調理実習と試食を継続して実施することにより、実践につなげ、共食の推進を図る。参加者数を増やすため、生涯学習施設との共催や地域活動におけるPR活動等を行っている。	年14回実施 低栄養予防に関する知識の普及										
		4	葵・駿河・清水区役所健康支援課		健康まつりにおける栄養相談	・栄養士による食生活相談コーナー ・食事バランスガイドの普及 ・骨密度測定に伴う栄養相談 ・各地区で実施する健康まつりにおいて、栄養士による食生活相談を実施	●◎	●	●	●	●	●	●	●	●	コロナ禍以降、健康まつりの規模が縮小傾向にあるため栄養相談コーナーを設けないこともある。	希望者全員に栄養相談を実施する。	幅広い世代への情報提供	参加者が興味を持ちそうな媒体や資料を提供する。また、市で行う他事業への参加につなげる。	希望者全員に栄養相談を実施する。										
		5	静岡市食生活改善推進協議会		健康まつりへの参加	各保健福祉センターの健康まつりで食の啓発を行う	●◎	●	●	●	●	●	●	●	●	コロナ禍以降、健康まつりの規模が縮小傾向にあるため、依頼数が減っている。	依頼があれば、調理体験等を実施し、幅広い世代へ食の啓発を行う。	依頼に応じて開催する。	依頼があれば簡単な調理実習や汁物の塩分チェックなど行い、食の啓発を行う。	2回										
		6	静岡県給食協会		しずおかアクティ部	栄養関連資料の配布、栄養相談	●◎	●	●	●	●	●	●	●	●	●	今後の参加については検討中	今後の参加については検討中	今後の参加については検討中	参加については検討	未定									
		7	葵・駿河・清水区役所健康支援課		健康相談(随時)	電話、面接等での栄養相談	◎	◎	◎	●	●	●	●	●	●	●	個々の相談内容に沿った資料を活用し、行動変容ができるよう支援している。	個々の相談に広く対応できるように、食に関する知識や資料の更新をしていく。	個々の相談に広く対応する	相談者の状況を聞き取り、個々の相談に広く対応する。	対応依頼がある場合(電話、来所、訪問)には、随時対応する。									

A	B	C	D	E	F	G	H							I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R			
基本 施策	主な 目標	事業 番号	課名 団体名	事 業 の 概 要			対象者(●:本人 ◎:保護者)							第4次計画策定時の状況			令和6年度事業計画		令和6年度事業実績			令和7年度事業計画				
				重点 事業	事業名	事業内容	0 5 歳	6 5 1 1 歳	1 2 5 1 0 歳	2 0 5 2 9 歳	3 0 5 3 9 歳	4 0 5 4 9 歳	5 0 5 5 9 歳	6 0 5 6 9 歳	7 0 歳 以上	現状・課題	令和6～12年度の 取組の方向性	令和12年度末目標値	取組方針	実施計画 (評価指標)	実績 (成果)	評価	評価の理由と課題	取組方針	実施計画 (評価指標)	
(2)適正体重や減塩等に配慮した食生活の実践	○新しい文化の創造等のやせの割合の減少 ○市民の割合の増加 ○生活習慣病予防や改善のために活用可能な食料や食料品を適切に選択し実施している	8	葵・駿河・清水区役所健康支援課	○	食生活サポート講座	・テーマ別の講話・自分合った食事量の確認 ・調理体験、試食(40～74歳とその家族対象)								・テーマ別に講話を行い、参加者アンケートより理解度・満足度も高く、適切な食事についての知識の普及につながっている。 ・参加者の少ない回もあり、参加者の確保が課題である。	自身の健診結果を踏まえて、適切な食事量やバランスのとれた食事についての知識の普及や、体験活動等により実践につながるよう支援していく。	教室アンケート 参加者の理解度80%以上 満足度80%以上	調理体験と試食を継続し、実践につながるよう支援する。 参加者数を増やすため、生涯学習施設との共催や地域活動におけるPR活動等を行っていく。	年14回実施 食事量や食事バランスについての知識普及								
		9	葵・駿河・清水区役所健康支援課		ヘルスアップ食事相談	生活習慣病予防に重点をおいた特定健診、特定保健指導								・個別相談により、個々に沿った対応を行っている。また、相談者が行動変容し、それを維持できるように支援している。拒否率が高く、電話等で接触を試みるが、接触不可になることも多い。	特定保健指導の一環として今後も継続する。また、相談日や会場について可能な範囲で調整し、面接につなげる。	接触率の維持、向上 接触率75%以上	相談日や会場について、利用者の利便性を最大限考慮する。	接触率75%以上								
		10	静岡市食生活改善推進協議会	○	生活習慣病予防教室	減塩等生活習慣病予防のための料理教室				●	●	●	●	●	減塩にも挑戦してみたいという意識を高めるために、調理実習等を継続的に実施する。	だしや香味野菜などを利用して、薄味でも美味しく食べることができる簡単レシピを提案していく。	地区ごとに2回以上開催し、減塩等の知識について広めていく。	地区ごとに2回開催を目安とする。	18回							
		11	静岡市食生活改善推進協議会		高齢者向け教室	低栄養及び認知症予防高齢者向け教室								●	●	高齢者の栄養バランスや食への関心を高めることが必要。	楽しく会食することで健康寿命延伸や閉じこもり予防につなげる。	地区ごとに2回以上開催し、低栄養予防等に取組む。	地区ごとに2回開催を目安とする。	18回						
		12	静岡市食生活改善推進協議会		骨と体に良い料理教室	骨粗しょう症や低栄養予防対策についての調理実習・試食を通して楽しく学ぶ				●	●	●	●	●	●	メタボ予防からフレイル予防への切替や人となつながら楽しい機会の提供が必要。	幅広い年代へ骨粗しょう症予防等について講話や調理実習等を通して伝えていく。	地区ごとに1回以上開催し、骨粗しょう症や低栄養等の予防に取組む。	地区ごとに1回開催を目安とする。	9回						
		13	中央卸売市場		市場料理教室	市場関係者の企画提案による一般市民向けの料理教室を行う		●	●	●	●	●	●	●	●	新規、総応募数ともに増加傾向にある点が良いが、参加者は60代以上が多いため、幅広い世代に参加してもらいたいと考えている。	地域・季節の食材を使用した料理教室を実施し、食に関する情報発信の場として充実させる。	①回数:年間11回以上 ②人数:各回募集人数の9割以上(募集人数12～16人)	・市場ならではの食材、品種を使った強みを生かす料理教室の開催。 ・幅広い世代の人に参加してもらうため、親子料理教室の回数を増やす。	①回数:年間11回以上 ②人数:各回募集人数の9割以上(募集人数12～16人)						
14	静岡県給食協会		栄養士研修会		栄養アセスメントについての講習会、事例研究発表				●	●	●	●	●	●	研修会の内容の充実	研修会の内容の充実	現状通りでの開催	昨年度同様に開催予定	研修会の実施							

A	B	C	D	E	F	G	H								I	J	K	L	M	N	O	P		Q		R
基本 施策	主な 目標	事業 番号	課名 団体名	事業の概要			対象者(●:本人 ◎:保護者)								第4次計画策定時の状況			令和6年度事業計画		令和6年度事業実績			令和7年度事業計画			
				重点 事業	事業名	事業内容	0 5 歳	6 5 1 1 歳	1 2 5 1 9 歳	2 0 5 2 9 歳	3 0 5 3 9 歳	4 0 5 4 9 歳	5 0 5 5 9 歳	6 0 5 6 9 歳	7 0 歳 以上	現状・課題	令和6～12年度の 取組の方向性	令和12年度末目標値	取組方針	実施計画 (評価指標)	実績 (成果)	評価	評価の理由と課題	取組方針	実施計画 (評価指標)	
(3) 食品の安全・安心に関する知識の習得	○食品の安全性について基礎的知識を持つ市民の割合の増加	15	食品衛生課	○	食の安全教室	小学校等で食中毒・添加物等についての講話を行う		●	●						毎年一定数の応募があり、おおむね高い満足度を得ている。応募数によっては対応する課の負担になる場合があり、今後も調整を図っていく。	内容の充実、講師のスキルアップや資料の見直しを図る。	9回	内容の充実、講師のスキルアップや資料の見直しを図る。	12回							
		16	食品衛生課		食の安全・安心リスクコミュニケーション	食の安全・安心に関する講座やリスクコミュニケーションを開催		●	●	●	●	●	●	●	参加者の満足度はおおむね高い。内容を充実させるため、その時々にあった話題を取り入れていく。	内容の充実、講師のスキルアップや資料の見直しを図る。	出前講座は申し込みに応じて実施予定。マタニティ教室7回	内容の充実、講師のスキルアップや資料の見直しを図る。	出前講座は申し込みに応じて実施予定。マタニティ教室10回							
		17	食品衛生課		給食施設研修事業	衛生講習会、栄養講習会									給食施設の従事者が講習会に参加しやすいようにハイブリッド方式で開催している。	給食施設の従事者の知識・技術向上につながる最新の情報やニーズ等を把握し、講習会を企画・開催する。その時の現状にあわせて、参加者が参加しやすい方法で開催する。	衛生講習会 年3回 栄養講習会 年2回	給食施設や従事者の資質向上のため、講習会の開催を継続する。会場参加とオンライン参加を選択できるようにして実施する。	衛生講習会 年3回 栄養講習会 年2回							
		18	食品衛生課		栄養成分表示促進事業	・栄養に関するリーフレットの作成、配布 ・栄養成分表示店募集及び周知のためのリーフレットの作成、配布 ・食品表示、栄養計算講習会の開催	●	●	●	●	●	●	●	●	健康日本21(第2次)の目標であった「食品中の食塩や脂肪の低減に取組む食品企業及び飲食店の登録数の増加」が第3次移行に伴い廃止(目標達成)となった。しかし、現在の栄養成分表示促進事業には栄養成分表示に加えてヘルシーマークの表示があり、栄養・食生活分野の目標である「食塩摂取量の減少」や「野菜摂取量の増加」等を達成するために必要な事業である。そのため事業の実施要領を見直し継続する。	今後の食品表示関係法令の動向を注視しつつ、栄養成分表示の適正化の推進を行う。あわせて、市民が自ら健康的な食生活を実践するための栄養成分表示の活用について情報発信を行う。	食べ方スキルアップ！ 栄養計算と食品表示の見方の講座 年2回 栄養成分表示に関する普及啓発を目的とした資料の印刷・配布 年5,000部	栄養成分表示促進事業実施要領を見直した上で、市民が外食や中食等を利用する際に食事内容を考えながら購入できる環境を整える。広く栄養成分表示を活用してもらうための講座の開催及び資料の印刷・配布を行う。	食べ方スキルアップ！ 栄養計算と食品表示の見方の講座 年2回 栄養成分表示に関する普及啓発を目的とした資料の印刷・配布 年5,000部							
		19	静岡市食品衛生協会		「食品衛生月間」街頭広報活動	静岡駅コンコース等において、行政及び食協職員等により参加者120名によりチラシ、パンフレット、うちわ、ノベルティなどを配布し、食中毒予防を呼びかける	●	●	●	●	●	●	●	●	・食品衛生月間(8月)のウィークデーの初日にJR静岡駅で実施	継続	現状維持	現状維持	・食中毒予防街頭キャンペーン ・食中毒予防懸垂幕設置 ・食中毒予防のぼり旗の設置							
20	静岡市食品衛生協会		「静岡食協ニュース」の編集、発行(年4回)	・年4回(タブロイド版4項)静岡市食品衛生協会機関紙として発行(5,860部) ・食関係の行政や日食協からの情報の伝達や提供									・行政や日食協からの情報は、会員にとって非常に重要であるので、情報提供のツールとして有意義である。	継続	現状維持	現状維持	・静岡市食協ニュースの編集、発行(年4回)									

A	B	C	D	E	F	G	H								I	J	K	L	M	N	O	P		Q		R
基本 施策	主 な 目 標	事 業 番 号	課 名 団 体 名	事 業 の 概 要			対象者(●:本人 ◎:保護者)								第4次計画策定時の状況			令和6年度事業計画		令和6年度事業実績			令和7年度事業計画			
				重点 事業	事業名	事業内容	0 5 歳	6 5 1 1 歳	1 2 5 1 9 歳	2 0 5 2 9 歳	3 0 5 3 9 歳	4 0 5 4 9 歳	5 0 5 5 9 歳	6 0 5 6 9 歳	7 0 歳 以上	現状・課題	令和6～12年度の 取組の方向性	令和12年度末目標値	取組方針	実施計画 (評価指標)	実績 (成果)	評 価	評価の理由と課題	取組方針		実施計画 (評価指標)
		21	静岡市食品衛生協会		地域のお祭り等の「バザー等開催届」提出団体への消毒薬の提供	市民に調理や食品の提供に際して、手洗いかいかに重要であるかの認識を深めてもらう	●	●	●	●	●	●	●	●	・食品取扱の際には「手洗い」がいかに重要かを説明し、食の安全への意識向上を図る。	継続	現状維持	現状維持	・バザー実施団体へのハンドソープの提供及び手洗い指導							
		22	静岡県給食協会		衛生講習会	栄養アセスメントについての講習会、事例研究発表				●	●	●	●	●	講習会の内容の充実	講習会の内容の充実	現状通りでの開催	昨年度同様に開催予定	講習会の実施							
		23	静岡県給食協会		見学研修会	見学研修会(食堂・厨房・調理器具の実演見学など)				●	●	●	●	●	研修会の内容の充実	研修会の内容の充実	現状通りでの開催	昨年度同様に開催予定	研修会の実施							
		24	静岡県調理師協会		調理師資質向上対策事業	各種研修を実施(生活習慣病予防の調理法、健康増進法、食文化、食品衛生等)				【対象】調理従事者				調理従事者に対し衛生関連の講習会の開催を行った	現状維持	現状維持	現状維持	各種研修を実施(生活習慣病予防の調理法、食品衛生等)								

A	B	C	D	E	F	G	H							I	J	K	L	M	N	O	P		Q	R				
基本施策	主な目標	事業番号	課名 団体名	事業の概要			対象者(●:本人 ◎:保護者)							第4次計画策定時の状況			令和6年度事業計画		令和6年度事業実績			令和7年度事業計画						
				重点事業	事業名	事業内容	05歳	6511歳	12519歳	20539歳	30549歳	40559歳	50569歳	60569歳以上	現状・課題	令和6～12年度の取組の方向性	令和12年度末目標値	取組方針	実施計画 (評価指標)	実績 (成果)	評価	評価の理由と課題	取組方針	実施計画 (評価指標)				
(4)よく噛んで食べることや楽しく食べる経験を通じた食生活の推進	〇〇毎日1回以上家族や友人等と一緒に食べ方をすると関心する市民の割合の増加	25	健康づくり推進課	○	歯周病検診	勤務先などで検診を受ける機会がない40歳以上の方を対象に歯周病検診を実施								●	●	●	成人健診まるわかりガイドの配布を通じ検診制度が市民へ周知されつつある	引き続き成人健診まるわかりガイドの配布を通じ検診制度を市民へ周知し受診行動に繋げる	成人健診まるわかりガイドの配布を通じ検診制度を市民へ周知し受診行動に繋がっている状態	検診の委託実施 検診制度を市民へ周知し受診行動に繋げる	検診の委託実施 検診制度の周知に加え歯周病の恐ろしさに関する周知啓発							
		26	健康づくり推進課		口腔機能向上事業	高齢者が、おいしく、楽しく、安全な食生活を営むために、オーラルフレイルや誤嚥性肺炎予防の重要性と歯ぐき☆スマイル体操の周知啓発のための講座等を市内各地で実施する										●	●	オーラルフレイルは放置をすることでフレイルや要介護に繋がるため、歯と口の健康維持の重要性を啓発している。引き続き、講座の実施や媒体の配付等を通じた周知啓発が必要である。	高齢者を対象とした講座やオーラルフレイル予防啓発リーフレットの配布により、市民のオーラルフレイル、フレイル予防を目指す。	・何でも噛んで食べることができる50～54歳男性の割合 86.0% ・何でも噛んで食べることができる70～74歳女性の割合 84.0%	高齢者グループ向け講座を市内各地で実施する。また、啓発リーフレットを作成し、地域包括支援センターや保険者、医療機関等に配付することで、オーラルフレイル予防の重要性を周知啓発していく。	地域の高齢者グループに出向く健康教育を25回実施	オーラルフレイル予防啓発リーフレットの作成					
		27	健康づくり推進課		1歳頃のむし歯予防事業	歯と口に関する正しい知識を普及し、乳歯のむし歯予防の行動変容を促すこと等を目的に8か月～1歳2か月頃の親子を対象とした教室や動画での情報発信を行う	●◎											令和5年3月に終了した「(旧)9か月児歯の教室」からの移行事業。教室は令和5年7月から、動画配信は令和5年5月から開始した。認知度が低いため、事業の周知啓発を行う必要がある。	教室では、グループワークの中でRDテスト(むし歯菌活動性試験)を用いた視覚的動機付けを行う。動画配信することにより、対象者への利便性を高める。	・むし歯のない子どもの割合(1歳6か月児)100% ・保護者が毎日仕上げみがきをしている子どもの割合(1歳6か月児)100%	むし歯予防・食べる機能の獲得・効果的な歯みがき方法等について啓発をする。また、広報紙やSNSを活用した事業の周知をすることにより、教室の参加者及び動画の視聴回数の増加を図る。	教室 年50回、参加者600人 広報紙やSNSを活用した事業の周知 動画配信 2本以上						
		28	健康づくり推進課		幼児期の歯科口腔保健支援事業	未就学児の歯科口腔保健の推進を図るため、希望する子ども園、保育園等の4、5歳児に対し、歯みがき巡回指導及び集団フッ化物洗口法を実施する	●◎											むし歯予防に対する正しい知識の普及に加え、歯むしごとや飲み込むことなど機能面に対する情報も発信している。 新規開設園が年々増加しているため、地域資源の活用を含め、実施方法を検討していく必要がある。	新規開設園の増加に対応するため、地域資源の活用を含め、事業を委託する団体と効果的な事業実施方法を協議検討していく。また、本事業が、フッ化物洗口法の実施拡大に繋がるよう、歯科保健に対する正しい知識の普及に努める。	・5歳児むし歯有病者率15%以下 ・実施施設数9割以上	希望する全国に実施し、園児や保育者、保護者に向けて歯科保健に対する正しい知識を普及啓発していく。	希望園に対し、全国実施 実施率90%以上 フッ化物洗口の正しい知識を普及						
		29	健康づくり推進課		学童期・思春期の歯科口腔保健支援事業	小中高校生の歯科口腔保健の推進を図るために児童や生徒、その保護者に情報提供を行うほか、関連する職種を対象とした研修会を行う	●◎	●◎											ここ数年、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の影響で、学校歯科医による歯科保健教育が実施されない学校が多かったことから、学校関係者を通じて児童生徒に対し、正しい歯科保健の周知啓発が必要である。	児童・生徒や養護教諭、学校歯科医、保護者などに歯科保健に関する正しい知識を普及啓発することで、小中高校生の歯と口の健康を目指す。	・12歳児むし歯有病者率11%以下	学校関係者向け歯と口の健康に関する啓発動画等を作成することで、学童期・思春期の歯科保健に関する正しい知識を普及啓発していく。	学校関係者向け啓発動画の作成 学校関係者が活用できる媒体の作成、公開 学校歯科医向け研修会の実施					
30	健康づくり推進課			歯と口の健康に関する普及啓発事業	6月4日～10日の歯と口の健康週間や11月8日のいい歯の日に合わせ、啓発展示や広報紙への掲載、SNSを活用した情報発信等を行い、市民の歯科保健に対する意識の向上を図る	●	●	●	●	●	●	●	●	●			6月4日～10日の歯と口の健康週間や11月8日のいい歯の日に合わせ、啓発展示や広報紙への掲載、SNSを活用した情報発信等を行い、市民の歯科保健に対する意識の向上を図る	6月4日～10日の歯と口の健康週間や11月9日のいい歯の日に合わせ、啓発展示や広報紙への掲載、SNSを活用した情報発信等を行い、市民の歯科保健に対する意識の向上を図る	6月4日～10日の歯と口の健康週間や11月10日のいい歯の日に合わせ、啓発展示や広報紙への掲載、SNSを活用した情報発信等を行い、市民の歯科保健に対する意識の向上を図る	歯と口の健康週間やいい歯の日に合わせ、啓発展示や広報紙への掲載、SNSを活用した情報発信等を行う	歯と口の健康週間やいい歯の日に合わせ、啓発展示や広報紙への掲載、SNSを活用した情報発信等を行う							

A	B	C	D	E	F	G	H							I	J	K	L	M	N	O	P		Q	R	
基本 施策	主 な 目 標	事 業 番 号	課 名 団 体 名	事 業 の 概 要			対象者(●:本人 ◎:保護者)							第4次計画策定時の状況			令和6年度事業計画		令和6年度事業実績			令和7年度事業計画			
				重点 事業	事業名	事業内容	0 5 歳	6 5 1 1 歳	1 2 5 1 9 歳	2 0 5 2 9 歳	3 0 5 3 9 歳	4 0 5 4 9 歳	5 0 5 5 9 歳	6 0 5 6 9 歳	7 0 歳 以上	現状・課題	令和6～12年度の 取組の方向性	令和12年度末目標値	取組方針	実施計画 (評価指標)	実績 (成果)	評 価	評価の理由と課題	取組方針	実施計画 (評価指標)
		31	子ども家庭課		妊婦歯科健診	妊婦を対象とした歯科健康診査及び歯科保健指導の実施		●	●	●	●			妊娠期における歯科健診の重要性を周知し、受診率維持を目指す。	受診票交付時の事業説明を丁寧に行う。定期健診の重要性について周知を行う。静岡・清水両歯科医師会との連携。	51,2%	受診票交付時、妊娠中の口内ケアの重要性について説明を行い、妊婦歯科健診の受診を促す。	51,2%							
		32	静岡市食生活改善推進協議会		歯と口の健康	幼児から高齢者まで年齢に合わせた講話	●◎	●◎		●	●	●	●	●	口から食べることの重要性を食べ方(かむ、味わう、飲み込む等)を通して、伝えていくことが必要。	8020推進員研修会等で知識を得ながら、食べ物の知識と食べ方を通して健全な食生活を周知する。	啓発事業として各事業で開催	啓発事業として各事業で開催	50回						
		33	葵・駿河・清水区役所健康支援課		おやこ食育教室	講話、紙芝居、エプロンシアター、食育体験	●◎							参加者アンケートより理解度・満足度が高く、幼児期の望ましい食生活についての知識普及や保育者の不安軽減につながっている。参加者が少ない回数もあり、参加者確保が課題である。	親子で食に関する知識と食を選択する力を習得する機会となる教室にする。併せて共食の推進に取り組む。	教室アンケート 参加者の理解度80%以上 満足度80%以上	簡単な調理体験と試食を取り入れることで共食の推進を図る。また、生活全般の相談に応じて不安や悩みの軽減を図っていく。参加者数を増やすため引き続きPR活動等を行っていく。	年25回実施 幼児期の食生活についての不安軽減及び望ましい食生活についての知識普及							
		34	静岡市食生活改善推進協議会	○	楽しく子育て応援教室	絵本紹介や折り紙、紙芝居、おやつづくり、料理の紹介など、子どもとその保護者が食を楽しむ場を提供する	●◎	●◎	●◎					子どもの頃に身についた食習慣を大人になってから改めることは困難であるため、子どもの頃から望ましい食生活を実践できるような知識の普及に取り組む。	「減塩」「野菜摂取の増加」「朝食の摂取」及び「緑茶に親しむ」を重点テーマとして普段の食生活で実践できる内容について実施していく。	地区ごとに1回以上開催を目安とする。	地区ごとに1回以上開催を目安とする。	15回 (ふじのくに食育教室も含む)							
		35	静岡市子ども会連合会		サマーキャンプ	子どもたちで献立を計画し、3日間の野外活動を実践する	●◎	●	●	●	●	●	●	家庭から離れて自分で食事を作る楽しさ、大変さを実感する	子どもの目線に立ち食事の工夫と食材の無駄をなくす	子どもだけでなく親子で参加し、日常では味わえない体験、経験をする	親子も楽しめる子ども会	年1回の事業							
		36	静岡市食生活改善推進協議会		シニアカフェ	お茶を飲みながら、健康や食に関する話題について自由に話したりする高齢者お第3の居場所作り							●	高齢者の共食の機会やフレイル予防等を目的に取り組む。	地域の高齢者を対象に脳トレや簡単な体操などを行い、いきいきと楽しむ場の提供	地区ごとに2回以上開催を目安とする。	地区ごとに2回以上開催を目安とする。	20回							

A	B	C	D	E	F	G	H							I	J	K	L	M	N	O	P		Q	R
基本 施策	主 な 目 標	事 業 番 号	課 名 団 体 名	事 業 の 概 要			対 象 者 (●:本人 ◎:保護者)							第4次計画策定時の状況			令和6年度事業計画		令和6年度事業実績			令和7年度事業計画		
				重 点 事 業	事 業 名	事 業 内 容	0 5 歳	6 5 1 1 歳	1 2 5 1 9 歳	2 0 5 2 9 歳	3 0 5 3 9 歳	4 0 5 4 9 歳	5 0 5 5 9 歳	6 0 5 6 9 歳	7 0 歳 以 上	現 状・課 題	令和6～12年度の 取組の方向性	令和12年度末目標値	取 組 方 針	実 施 計 画 (評 価 指 標)	実 績 (成 果)	評 価	評価の理由と課題	取 組 方 針
(5) 食育の普及啓発・情報発信	〇〇食育に関する情報を得るために行動をする若い世代の割合の増加	37	こども園課	○	公立こども園における食育推進事業	・体験を通じた適切な食習慣の体得(野菜、米等の栽培やクッキング、地域や公共機関と連携した食育推進、旬の食材の活用) ・給食を通じた適切な食習慣の啓発(行事食、食材・給食・食育資料等の展示、食育だより・レシピの配布、保護者への試食会) ・歳児別食育計画作成	●		◎	◎	◎	◎	◎	◎	・各こども園で野菜の栽培、クッキング等の食育活動が実施できている。 ・「かむ力」についての食育活動が実施できている。	・各こども園で体験を通して食育活動を実施していく。 ・課題を把握し、効果的に食育活動を実施する。	・各こども園で野菜の栽培やクッキング、地域のお店と連携した食育活動を実施。 ・子どもの食に関する課題に対する食育活動を各こども園で実施。	・給食室巡回時に全園に対して食育年間計画を参照し、食育活動の内容を確認する。 ・子どもの「かむ力」の課題に対する食育活動を継続して実施する。 ・各こども園の食育担当者等に対して食育活動の支援を行う。	・全園(大川、梅ヶ島こども園は休園のため57園)に対して巡回を実施し、食育年間計画を参照し、各園の食育活動の内容を確認する。 ・毎月、かみかみメニューを提供する。 ・栄養士連絡会にて食育アイデア集を作成する。					
		38	こども園課		保育フェアでの食育展示	・こども園、保育園食育実施例の紹介(写真の展示・資料配布) ・こども園、保育園で栽培した野菜の展示 ・食事バランスガイド等食育に関するリーフレット配布 ・箸の持ち方資料配布 ・人形劇の実施	●	●	●	●	●	●	●	●	食を通じた世代間交流や生産者と消費者との交流を行うことで食の楽しさを実感することができている。	継続して実施していくことで、市民への普及啓発を図る。	静岡市保育協会主催の保育フェア(年1回)で食育コーナーを設け、食育展示を実施。	保育フェアで食育コーナーを設け、食に関する情報を発信する。	・こども園の給食レシピを配付する。 ・食べ物に関するクイズを実施する。					
		39	学校給食課	○	食に関する情報発信	毎月配布している献立表や学校給食ウェブサイトを活用して、市内公立小中学校の児童生徒やその保護者に食育を広く周知する	●◎	●◎							・食育や教科等の教材としての認知度は上がってきたが、積極的な活用まで至っていない。 ・保護者は給食の献立の閲覧回数が多い。 ・教材に活用できる資料と学校給食に興味関心を持つ情報を定期的に発信する。 ・学校給食ウェブサイトの周知方法を工夫する。	学校給食献立表や学校給食ウェブサイトを活用して、栄養バランス、旬の野菜、食事のマナー、ふるさと給食や行事食など食育に関わる情報全般を発信する。	・学校給食ウェブサイト等を活用した学校の割合80% ・学校給食ウェブサイトの年間更新回数48回(月4回)	学校給食献立表や学校給食ウェブサイトを活用して、栄養バランス、旬の野菜、食事のマナー、ふるさと給食や行事食など食育に関わる情報全般を発信する。	・学校給食ウェブサイト等を活用した学校の割合15% ・学校給食ウェブサイトの年間更新回数24回(月2回)					
		40	食品衛生課		食の安全・安心ホームページ「たべしずねっと」	食育や食の安全に関する情報、レシピ集、ニュース等を掲載する専用サイト	●	●	●	●	●	●	●	●	コンテンツの充実、ホームページ管理の知識・技術の向上、サイトのPR方法が課題である。	サイトのPR方法、内容の充実を検討する。	アクセス数:30,000回 メールマガジン:9回発行	サイトのPR方法、内容の充実を検討する。	アクセス数:40,000回 メールマガジン:12回発行					
		41	健康づくり推進課		食育ホームページ	食に関する情報やイベント情報の提供、食育応援団の活動等を紹介	●◎	●◎	●	●	●	●	●	●	SNS等による食に関する情報発信を増やしていく。	無関心層にも発信できるように内容等についても検討しながら取り組む。	食育事業の周知や実施状況等について定期的に掲載。	情報提供の内容を見直し、より実践につながる効果的な情報発信を行う。	SNS等を利用した食に関する情報発信10回					
		42	水産振興課		しずまえ新聞の発行	しずまえの漁業や水揚げされる水産物、しずまえの豆知識、魚料理のコツなどを掲載 市立小中学校の児童、生徒全員に配布(私立校は学校に配布)	●	●	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	市立の小・中学校の全児童・生徒約5万人に配布した。地元の水産物の種類や食べ方、有効性について理解を深めることができている。	引き続き、多くの子どもや子どもを持つ家庭に、しずまえの水産物や漁業、食べ方などを知ってもらうため、しずまえ新聞を小中学生に配付し、地産地消学習に活用していく。	6月、11月に市内の公立小中学校の全児童・生徒約5万人に配布。	引き続き、多くの子どもや子どもを持つ家庭に、しずまえの水産物や漁業、食べ方などを知ってもらうため、しずまえ新聞を小中学生に配付し、地産地消学習に活用していく。	6月、11月に市内の公立小中学校の全児童・生徒約5万人に配布。				

A	B	C	D	E	F	G	H							I	J	K	L	M	N	O	P		Q	R			
基本 施策	主 な 目 標	事 業 番 号	課 名 団 体 名	事 業 の 概 要			対象者(●:本人 ◎:保護者)							第4次計画策定時の状況			令和6年度事業計画		令和6年度事業実績			令和7年度事業計画					
				重 点 事 業	事業名	事業内容	0 5 歳	6 5 1 1 歳	1 2 5 1 9 歳	2 0 5 2 9 歳	3 0 5 3 9 歳	4 0 5 4 9 歳	5 0 5 5 9 歳	6 0 5 6 9 歳	7 0 歳 以上	現 状・課 題	令和6～12年度の 取組の方向性	令和12年度末目標値	取組方針	実施計画 (評価指標)	実績 (成果)	評 価	評価の理由と課題	取組方針	実施計画 (評価指標)		
		43	学校給食課		啓発資料の作成	小学1年生の保護者を対象に「学校給食が始まります」の冊子を配布	●◎	●◎							食育推進状況調査より、食育啓発資料が食育推進のために役立っていると思う学校が50%であった。 ・同資料のウェブ版を作成し学校給食ウェブサイトに掲載。	・第4次静岡市食育推進計画を上位計画とした「静岡市立小中学校における食育推進ガイドライン(小中学校における食育推進事項)」に沿った啓発資料を作成し、配付、発信する。	各校の食育推進状況調査にて「食育啓発資料が食育推進のために役立っていると思う」と回答する学校70%以上。	・第4次静岡市食育推進計画を上位計画とした「静岡市立小中学校における食育推進ガイドライン(小中学校における食育推進事項)」に沿った啓発資料を作成し、配付、発信する。	各校の食育推進状況調査にて「食育啓発資料が食育推進のために役立っていると思う」と回答する学校50%以上。								
		44	中央図書館		食の安全・食育に関する資料の展示	市立図書館12館において、関連資料(本・パンフレット)を展示	●	●	●	●	●	●	●	●	普段手に取られない資料も、展示として出すことで手に取ってもらえる。今後も継続していく。	引き続き全12館で展示を実施していく。 ※大規模改修等で休館する館を除く	市立図書館12館で展示を実施 ※大規模改修等で休館する館を除く	全12館で展示を実施していく。 ※大規模改修等で休館する館を除く	市立図書館12館で関連資料(本・パンフレット)を展示する。※大規模改修等で休館する館を除く								
		45	健康づくり推進課		静岡市版食事バランスガイド	静岡市版食事バランスガイドを使用し、栄養バランスのとれた食生活の普及啓発を行う	◎	◎	◎	●	●	●	●	●	食事バランスガイドへの理解が難しいため、年代別に分かりやすい栄養/バランスのとれた食生活について内容等を検討。	静岡市版食事バランスガイドを新しく作成し、広く周知していく。	市の各事業やイベント等において配布し、栄養バランスのとれた食生活の重要性について理解する。	栄養バランスのとれた食生活について静岡市の食材を使用しながら理解できる資料を作成する	・新しく使用を作成 ・食育の日や関係課、関係団体等と連携して配布								
		46	健康づくり推進課		食育の日、食育月間の普及啓発	・市役所にてポスター、ちらし等の展示、掲示 ・民間団体等と連携した食育活動	●◎	●◎	●	●	●	●	●	●	食育の日、食育月間について周知が必要。	第4次静岡市食育推進計画に基づき、関係課・関係団体等と継続的に周知していく。	食育の日、食育月間、健康増進月間等のイベントの開催 官民連携による食育推進活動の実施	食育の日(毎月19日)、食育月間(毎年6月)で、自身の食生活を振り返る機会とする。	食育月間での展示(静岡・清水庁舎) 食育月間・食育の日の庁舎内放送								
		47	静岡市食生活改善推進協議会		食育の日キャンペーン	毎月19日の食育の日、毎年6月の食育月間等で街頭キャンペーンの実施	●◎	●◎	●	●	●	●	●	●	地区ごとに児童館やスーパー等にて食育キャンペーンを実施。 静岡伊勢丹ウェルネスパークにて市と連携し実施している。 新規会場にてキャンペーンができるように検討していく。	市と連携しながら食育月間や食育の日等に街頭キャンペーンを継続して実施していく。	地区ごとに1回以上開催を目安とする。	地区ごとに1回以上開催を目安とする。	9回								
		48	学校給食課		食育講習会	各小中学校での食育推進の支援のため、講義、実践発表等を実施	【対象】 教職員、栄養教師、栄養士、PTA、食育関係者、こども園職員							・主幹教諭(教務主任を含む)や給食担当者等が参加する恐竜研修として年1回実施。 ・食育推進の意識が担当者から全教職員に拡大しない。	・食育の具体的な実践発表と中央研修の伝達講習、大学教授による食育講話等を現場の実態・ニーズに合わせて企画し、学校教育活動全体で食育に取り組む必要性と推進の方向性を示す。	・第4次静岡市食育推進計画を上位計画とした「静岡市立小中学校における食育推進ガイドライン」に沿った食に関する指導を旨とした講習会の企画・運営。 ・講習会を年1回実施し、その満足度95%以上。	・食育の具体的な実践発表と中央研修の伝達講習、大学教授による食育講話等を現場の実態・ニーズに合わせて企画し、学校教育活動全体で食育に取り組む必要性と推進の方向性を示す。	・講習会を年1回実施し、その満足度85%以上。									

A	B	C	D	E	F	G	H							I	J	K	L	M	N	O	P		Q		R	
基本 施策	主な 目標	事業 番号	課名 団体名	事業の概要			対象者(●:本人 ◎:保護者)							第4次計画策定時の状況			令和6年度事業計画		令和6年度事業実績			令和7年度事業計画				
				重点 事業	事業名	事業内容	0 5 歳	6 1 1 歳	12 5 1 9 歳	20 5 2 9 歳	30 5 3 9 歳	40 5 4 9 歳	50 5 5 9 歳	60 5 6 9 歳	70 歳 以上	現状・課題	令和6～12年度の 取組の方向性	令和12年度末目標値	取組方針	実施計画 (評価指標)	実績 (成果)	評価	評価の理由と課題	取組方針	実施計画 (評価指標)	
(6)規則正しい食習慣の実践	○朝食をバランスする若い世代の割合の減少 ・栄養士を活用して実施した学校の割合の増加	49	学校給食課	○	食に関する指導	・児童生徒に食に関する正しい知識と望ましい食習慣が身につくように、各小中学校で食に関する指導を実施 ・献立表や学校給食ウェブサイトによる情報提供	●	●							・R5に各学年1回以上実施した割合89.6% (126校中112校で実施) ・R5の小中学校別実施率 小学校92.7% 中学校83.6%	栄養教諭・栄養士によるTT授業の充実と図るため、食に関する指導の授業研修会を実施する。	・各学年1回以上実施した食に関する指導の割合95% ・小中学校別実施率 小学校94% 中学校85%	各学年1回以上の「食に関する授業」を実施。各学校の状況に合わせて柔軟に対応する。	・各学年1回以上実施した割合90% ・小中学校別実施率 小学校94% 中学校85%							
		50	健康づくり推進課	○	しずおかカラダにeat75	民間企業・高校・大学等と連携し、食育教室やイベント等を通して、若い世代の「食」を通じた健康づくり事業を実施	◎	◎	●	●					若い世代は、栄養バランスのとれた食事、規則正しい食習慣、女性のやせ、朝食摂取などに對しての課題が他年代と比べて多い傾向がある。 若い世代が中心となり、健全な食生活を次世代へつなげていくことができるよう食育を推進する。	高校生や大学生等の若い世代を対象に、民間事業者等と連携して、年度ごと新しい取組を考案し、取り組んでいく。 若い世代の食に関する課題解決に取り組む。	大学等や高校生などの若い世代を対象とした食育イベントなどの開催	大学の食堂を利用して、野菜摂取に向けた食に関するイベントを大学と共催で開催予定。	大学と共催で実施する食育イベントの開催2回							
		51	静岡市私立幼稚園連合会	○	栄養素について学ぶ	食育について、パープサートや紙芝居等でわかりやすく伝える	●								子どもにわかりやすく工夫し伝えている	継続して食育に興味を持てるような教材を使っていく	各園で実施	継続して食育に興味を持てるような教材を使っていく	食育に関して興味を持てるような教材を利用し、栄養素など伝える							
		52	静岡市私立幼稚園連合会		給食参観	保護者に給食参観をしていただき、子どもと一緒に給食を食べ、栄養に関することについても話をする	●◎								給食の献立などを参考に、ご家庭の食事にも取り入れた保護者がいた	継続して子どもの食事の様子を保護者に伝えていく	各園で実施1回～3回	継続して子どもの食事の様子を保護者に伝えていく	給食参観などで子どもの食事の様子をみていただく							
		53	葵・駿河・清水区役所健康支援課		マタニティ教室における栄養士講話	・講話(妊娠中の栄養・食生活、食の安全に関する内容) ・個別相談									青年期層の女性の「やせ」傾向が進み、胎児期の低栄養状態や成人期における生活習慣病のリスクが高まっている。教室をとおして妊娠期の食生活を見直し、妊婦および胎児の健康づくりをサポートする必要がある。	「妊娠中の食事や栄養バランス等について知ることができましたか」の問いに「はい」と回答80%以上	バランスのよい食事や妊娠期の食生活のポイントについて、理解を深められるよう支援していく。	教室アンケート 栄養士講話における参加者の理解度80%以上	初産婦及び経産婦を対象に、オンデマンド方式と対面方式で実施予定。対面では栄養士講話を20分に短縮し、妊娠期の食生活の知識普及のため支援していく。	年10回実施 オンデマンド配信年3回						
		54	葵・駿河・清水区役所健康支援課		0歳児の育児相談、6か月児育児相談における栄養相談	離乳食に関する個別栄養相談	◎									離乳食の進み具合には個人差があるため、個別に栄養相談を実施し、相談者の状況に応じた助言指導を行っていく必要がある。	離乳食について不安をかかえる保育者に対し、継続的な支援が必要である。	年間計画通りに実施。個々の対応を行い、離乳食の進め方について、保育者の不安を軽減、解消させる。	個々の悩みに応じた、栄養相談を行い、保育者の不安や悩みの軽減を図る。	0歳:年119回実施 6か月:年155回実施 離乳食に関する保育者の不安解消、軽減						
55	葵・駿河・清水区役所健康支援課		1歳6か月児健康診査における栄養相談	健康診査時の個別栄養相談	●◎									子どもの朝食欠食が増加しており、成人期における生活習慣病のリスクが高まっている。個々の悩みに応じた栄養相談を実施し、望ましい食習慣を周知していく必要がある。	個々の対応を行い、幼児期の食生活について、保育者の不安を軽減するよう支援していく。	年間計画通りに実施。個々の対応を行い、幼児期の食生活について、保育者の不安を軽減、解消させる。	幼児食に関する保育者の不安を軽減するため、また、健康的な望ましい食生活についての知識普及のため、他職種と連携した支援を行っていく。	1.6歳:年113回実施 幼児期の食生活についての不安軽減及び望ましい食生活についての知識普及								

A	B	C	D	E	F	G	H							I	J	K	L	M	N			O	P		Q		R
基本 施策	主 な 目 標	事 業 番 号	課 名 団 体 名	事 業 の 概 要			対象者(●:本人 ◎:保護者)							第4次計画策定時の状況			令和6年度事業計画		令和6年度事業実績			令和7年度事業計画					
				重点 事業	事業名	事業内容	0 5 5 歳	6 5 1 1 9 歳	1 2 5 1 9 歳	2 0 5 2 9 歳	3 0 5 3 9 歳	4 0 5 4 9 歳	5 0 5 5 9 歳	7 0 歳 以上	現 状・課題	令和6～12年度の 取組の方向性	令和12年度末目標値	取組方針	実施計画 (評価指標)	実績 (成果)	評 価	評価の理由と課題	取組方針		実施計画 (評価指標)		
		56	葵・駿河・清水区役所健康支援課		3歳児健康診査における栄養相談	健康診査時の個別栄養相談	●●							子どもの朝食欠食が増加しており、成人期における生活習慣病のリスクが高まっている。個々の悩みに応じた栄養相談を実施し、望ましい食習慣を周知していく必要がある。	個々の対応を行い、幼児期の食生活について、保育者の不安を軽減するよう支援していく。	年間計画通りに実施。個々の対応を行い、幼児期の食生活について、保育者の不安を軽減、解消させる。	幼児食に関する保育者の不安を軽減するため、また、健康的な望ましい食生活についての知識普及のため、他職種と連携した支援を行っていく。	3歳:年111回実施									
		57	葵・駿河・清水区役所健康支援課		離乳食の作り方教室	講話・実演・試食・個別相談	◎							参加者アンケートより満足度が高く、保育者の不安解消、軽減につながっている。参加者によって、調理技術や理解力等に差があるため、状況に応じた対応が必要である。	離乳食開始前後の不安や悩みを解消する場として、今後も継続していく。参加者の状況に合わせて、説明方法を工夫していく。また、保育者の食生活の重要性についても呼びかけをする。	教室アンケート 参加者の理解度80%以上 満足度80%以上	離乳食の展示や実演を継続して行い、新たに試食を再開することで保育者の不安軽減を図る。	年118回実施									
		58	子ども未来課		食育活動	市内の児童館等で栄養士や食生活改善推進協議会による食育講座、野菜の栽培～消費までの体験イベントなど食に触れる活動を行う	●◎ ●◎ ●							市内の児童館が各館特色のある食育活動を行っている。子どもや保護者が地域や人とのつながりの中で食を学ぶことで食への関心を高め、いかに生活する力を身につけてもらうかが課題となる。	各館での取り組みを継続する。	市内全児童館で実施	野菜の苗を植えて育てる、行事の中で食物の栄養素などについて話すなどクッキング等によらない事業の検討をし取り組んでいく。	市内10館 19回実施									

A	B	C	D	E	F	G	H							I	J	K	L	M	N	O	P	Q		R		
基本 施策	主 な 目 標	事 業 番 号	課 名 団 体 名	事 業 の 概 要			対象者(●:本人 ◎:保護者)							第4次計画策定時の状況			令和6年度事業計画		令和6年度事業実績			令和7年度事業計画				
				重点 事業	事業名	事業内容	0 5 歳	6 5 1 1 歳	1 2 5 1 9 歳	2 0 5 2 9 歳	3 0 5 3 9 歳	4 0 5 4 9 歳	5 0 5 5 9 歳	6 0 5 6 9 歳	7 0 歳 以上	現状・課題	令和6～12年度の 取組の方向性	令和12年度末目標値	取組方針	実施計画 (評価指標)	実績 (成果)	評 価	評価の理由と課題	取組方針		実施計画 (評価指標)
(7) 環境に配慮した食生活の実践	〇〇環境に配慮した食生活の実践のためには、農林水産物を活用し、食品を通じた市民の割合を増加	59	ごみ減量推進課	○	食品ロス削減対策事業	ごみ減量啓発講座の開催、30・10(さんまる・いちまる)運動の推進等を通じて、食品ロス削減に対する意識向上を図り、ごみ減量を推進する	◎	●	●◎	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
		60	静岡市食生活改善推進協議会		スマートクッキング	「食」を通して環境問題の改善や食育実践につながるように「買い物」「調理」「食事」「片付け」の過程で環境や健康、食育について考えながら、「地産地消」「旬の食材での調理」「時短料理」などテーマを決めて実習する																				

A	B	C	D	E	F	G	H							I	J	K	L	M	N	O	P	Q		R		
基本 施策	主な 目標	事業 番号	課名 団体名	事業の概要			対象者(●:本人 ◎:保護者)							第4次計画策定時の状況			令和6年度事業計画		令和6年度事業実績			令和7年度事業計画				
				重点 事業	事業名	事業内容	0 5 歳	6 5 1 1 歳	1 2 5 1 9 歳	2 0 5 2 9 歳	3 0 5 3 9 歳	4 0 5 4 9 歳	5 0 5 5 9 歳	6 0 5 6 9 歳	7 0 歳 以上	現状・課題	令和6～12年度の 取組の方向性	令和12年度末目標値	取組方針	実施計画 (評価指標)	実績 (成果)	評価	評価の理由と課題	取組方針	実施計画 (評価指標)	
		61	関東農政局	第4次食育推進基本計画の重点課題の解決と目標達成のための取組										第4次食育推進基本計画に基づき、重点事項を以下のとおり定め、食育を推進 (1)生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進 (2)持続可能な食を支える食育の推進 (3)「新たな日常」やデジタル化に対応した食育の推進	第4次食育推進基本計画(令和3年度～令和6年度)の重点課題の解決と目標達成のための取組	第4次食育推進基本計画において設定する目標の目標値(令和7年度)	引き続き、第4次食育基本計画に基づき、重点事項を以下のとおり定め、食育を推進 (1)生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進 (2)持続可能な食を支える食育の推進 (3)「新たな日常」やデジタル化に対応した食育の推進	・食育推進協議会等で第4次食育推進基本計画及び環境に優しく持続可能な生産～消費を実現する「みどりの食料システム戦略」の周知・情報提供 ・6月食育月間周知のポスターを都県・政令指定都市に配付及び展示依頼 ・6月の食育月間に実施する関東農政局「消費者の部屋」特別展示にて関東農政局で作成の食育ポスターを合同庁舎2号館、ホテルプリランテ武蔵野等に展示、関東農政局HPにて「消費者の部屋」6月特別展示のポスターを掲示 ・関東食育推進ネットワーク会員の連携のプラットフォームとして、関東農政局のホームページ内「食育ひろば」やメールマガジンを有効活用 ・SNS等を活用した食育の情報発信 ・関東農政局ホームページ「食育ひろば」で随時、農林漁業体験情報、会員情報、イベント情報等の発信 ・関東食育推進ネットワーク会員に対しメールマガジンの配信(毎月19日) ・食育セミナーの開催(令和6年2月) ・管内都県・政令指定都市と連携した食育の推進								

A	B	C	D	E	F	G	H								I	J	K	L	M	N	O	P	Q		R
基本 施策	主 な 目 標	事 業 番 号	課 名 団 体 名	事 業 の 概 要			対象者(●:本人 ◎:保護者)								第4次計画策定時の状況			令和6年度事業計画		令和6年度事業実績			令和7年度事業計画		
				重 点 事 業	事 業 名	事 業 内 容	0 5 歳	6 5 1 1 歳	1 2 5 1 9 歳	2 0 5 2 9 歳	3 0 5 3 9 歳	4 0 5 4 9 歳	5 0 5 5 9 歳	6 0 5 6 9 歳	7 0 歳 以 上	現 状・課 題	令和6～12年度の 取組の方向性	令和12年度末目標値	取組方針	実施計画 (評価指標)	実績 (成果)	評 価	評価の理由と課題	取組方針	実施計画 (評価指標)
		62	しずおか市 消費者協会		エシカル消費推 進のための講 座・セミナーの 開催	・「地産地消」をテーマに マルシェの開催 ・「フードマイレージ」を テーマに地産地消推進講 座の開催 ・子どもの農業体験と学 習活動の推進 ・フードロス削減のため の食品表示学習セミナー の開催	●	●	●	●	●	●	●	エシカル消費について 周知が必要	エシカル消費の周知	エシカル消費の周知	エシカル消費について の講座を開催	年1回							
		63	生活安全安 心課		エシカル消費の 啓発	各講座や街頭広報活動など、 情報発信を通じてエシカル 消費の理念の啓発を図る	●	●	●	●	●	●	●	●	市民の多くは何等かの エシカルな行動はとれて いるものの「興味関心 を持ち」行動している 人は5割程度にとどま っている	エシカルな行動自体は 多くの市民がとれて いるため、「エシカル消 費」という言葉の啓 発を行い、エシカル消 費全体への関心を高 めていく	エシカル消費に興味 関心を持ち行動を実 践している市民の割 合:60%	啓発活動を随時実施 していく	講座(1回)の参加者ア ンケートにてエシカル 消費への関心が高ま った人8割以上						
		64	農業政策課		静岡市グリーン 農業推進事業 補助金	化学農業・肥料や温室効 果ガス削減に資する資機 材の導入費用や、消費 者や流通業者に向けて環 境負荷低減効果を周知 する包装資材などの作 成費用に対して補助 する				●	●	●	●	●	●	農業において環境負 荷を低減するために 必要な事業を実施 する者に対し、補助 金を交付している。	農協等を通じた周知 広報により、事業活 用者を増加させる。	年間10件の補助金 交付	農協等を通じた周知 広報により、事業活 用者を増加させる。	年間10件の補助金 交付					

A	B	C	D	E	F	G	H							I	J	K	L	M	N	O	P		Q		R
基本 施策	主な 目標	事業 番号	課名 団体名	事 業 の 概 要			対象者(●:本人 ◎:保護者)							第4次計画策定時の状況			令和6年度事業計画		令和6年度事業実績			令和7年度事業計画			
				重点 事業	事業名	事業内容	0 5 歳	6 5 1 1 歳	1 2 5 1 9 歳	2 0 5 2 9 歳	3 0 5 3 9 歳	4 0 5 4 9 歳	5 0 5 5 9 歳	6 0 5 6 9 歳	7 0 歳 以上	現状・課題	令和6～12年度の 取組の方向性	令和12年度末目標値	取組方針	実施計画 (評価指標)	実績 (成果)	評 価	評価の理由と課題	取組方針	実施計画 (評価指標)
(8) 地産地消の推進	〇地元・静岡市(で生産されたものを口頭から購入するようにしている市民の割合の増加	65	学校給食課	○	地場産物を取り入れた献立の提供	県内産食材や地域の食文化を生かした献立を実施	●	●							学校給食における地産地消率 41.3% (6、11月のふるさと給食週間に調査)	・給食実施月には地場産物を使用した「ふるさと給食」を実施。6月と11月には連続5日間地場産物を使用する「ふるさと給食週間」を実施する。 ・地場産物を活用した献立の提供を継続するとともに、献立表や学校給食ウェブサイト等でPRする。	静岡市の学校給食における地産地消率40%台を維持。(経年評価)	・給食実施月には地場産物を使用した「ふるさと給食」を実施。6月と11月には連続5日間地場産物を使用する「ふるさと給食週間」を実施する。 ・地場産物を活用した献立の提供を継続するとともに、献立表や学校給食ウェブサイト等で取組をPRする。	静岡市の学校給食における地産地消率40%以上。(経年評価)						
		66	農業政策課 水産振興課		農水産物の情報発信	ホームページ・フェイスブックによる農水産物の情報発信(ZRATTO!しずおか)	●	●	●	●	●	●	●	●	①年間104回(1週間に2回)を目標に取材等を行い情報発信を行っている。 ②年間52回(毎週水曜日)に市公式Xに投稿し、静岡市の水産物を広く市民にPRすることができた。	①リンク先の農業者からの記事の投稿を可能にし段階的に増やしていくことで農業者が情報発信できる環境をつくる。 ②引き続き市公式SNSを活用して、市内水産物の情報を提供し、「しずまえ」の市民認知度の向上に努めていく。	①HP「ZRATTO!しずおか」へのアクセス数71,000件 ②静岡市SNSへの投稿 年52回(毎週水曜日投稿)	①HP「ZRATTO!しずおか」の閲覧のデータ分析をもとによく読まれる記事を作成し、閲覧件数の増加を目指す。 ②引き続き市公式SNSを活用して、市内水産物の情報を提供し、「しずまえ」の市民認知度の向上に努めていく。	①HP「ZRATTO!しずおか」の閲覧件数12万件②静岡市SNSへの投稿 年52回(毎週水曜日投稿)						
		67	静岡市認定農業者協会 農業政策課		静岡市認定農業者協会「秋・冬・春の市」	認定農業者による農畜産物の対面販売	●	●	●	●	●	●	●	●	生産者が直接対面販売することで消費者に対して地産地消をPRできている。積極的な広報活動により毎回来場者は増加傾向にある。	引き続き地産地消のPRの場として事業を継続していく。	秋(11月)・冬(1月)・春(3月)の年3回開催。	引き続き地産地消のPRの場として事業を継続していく。	秋(11月)・冬(1月)・春(3月)の年3回開催。						
		68	①農業政策課 ②水産振興課 ③森林政策課		産業フェアしずおか	地場産物や加工品の試食、販売、PR	●	●	●	●	●	●	●	●	①2日間で34,300人の来場者に市内産農水産物について理解を深める機会を提供し、広くPRすることが出来た。 加工品の販売は充実しているが、体験コーナーを設け、「農水産業」への関心を更に深める必要がある。 ②2日間で87,000人の来場者に市内産農水産物について理解を深める機会を提供し、広くPRすることが出来た。 ③2日間で 人の来場者に市内農水産物について理解を深める機会を提供し、広くPRする。 加工品の試食、販売は充実しているが、体験コーナーを設け、「農水産業」への関心を更に深める必要がある。	①地場産品や加工品の試食、販売、体験コーナーにより、市民に市内産農水産物への理解と関心を深める。 ②地場産品や加工品の試食、販売、体験コーナーにより、市民に市内産農水産物への理解と関心を深める。 ③地場産品や加工品の試食、販売、体験コーナーにより、市民に市内産農水産物への理解と関心を深める。	2日間開催	①地場産品や加工品の試食、販売、体験コーナーにより、市民に市内産農水産物への理解と関心を深める。 ②地場産品や加工品の販売により、市民に市内産農水産物への理解と関心を深める。 ③地場産品や加工品の試食、販売、体験コーナーにより、市民に市内産農水産物への理解と関心を深める。	2日間開催(11/23、11/24)						
		69	静岡市農業協同組合		しずおか畜産まつり	・畜産物の販売 ・加工品づくり体験	●	●	●	●	●	●	●	●	●	イベントを開催すれば、売り上げも伸びる。しかし、生産者も減り、対応する職員も減っている。	他のイベントとの合同開催。	継続開催。	昨年と同様規模で開催予定。	イベントを開催する。					

A	B	C	D	E	F	G	H							I	J	K	L	M	N	O	P	Q		R
基本 施策	主 な 目 標	事 業 番 号	課 名 団 体 名	事 業 の 概 要			対象者(●:本人 ◎:保護者)							第4次計画策定時の状況			令和6年度事業計画		令和6年度事業実績			令和7年度事業計画		
				重点 事業	事業名	事業内容	0 5 歳	6 5 1 1 歳	1 2 5 1 9 歳	2 0 5 2 9 歳	3 0 5 3 9 歳	4 0 5 4 9 歳	5 0 5 5 9 歳	6 0 5 6 9 歳	7 0 歳 以 上	現 状・課題	令和6～12年度の 取組の方向性	令和12年度末目標値	取組方針	実施計画 (評価指標)	実績 (成果)	評 価	評価の理由と課題	取組方針
		70	清水農業協同組合		アグリフェスタ しみず	・農林水産業の紹介 ・農林水産物の展示販売・ 実演、体験	●	●	●	●	●	●	●	●	例年多くの方にご来 場いただいている。 午後には商品が無く なってしまふことが多 い。	継続実施。	継続実施。	継続実施。	—					
		71	静岡市農業協同組合		地産地消活動 (商店街・店頭 販売)	地盤産品の販売		●	●	●	●	●	●	●	イベントを開催すれば 売上も客数も伸びる。 地元の農産物が豊富 に揃うよう声掛けを 行う。	イベントは引き続き開 催し、じまん市以外へ も積極的に出店をす る。	年間30回以上イベン トへ出店。また産直市 では毎月イベント開催 を開催する。	新規就農や、親元就農 者へ声掛けし農産物 の確保を試みる。	イベントを開催してい く。またイベント出店 等の依頼があれば参 加をする。農家へ連絡 し、出荷物を確保す る。					
		72	清水農業協同組合	○	地産地消活動 (商店街・店頭 販売)	地場産物の販売		●	●	●	●	●	●	●	各地域で定期開催を 行っている。	継続実施する。各地域 女性組織中心に活動 する。	継続実施する。各地域 女性組織中心に活動 する。	継続実施する。各地域 女性組織中心に活動 する。	—					
		73	清水漁業協同組合		地元の海産物 (しらすをメイン に食べてみよう)	・小学校の家庭科、課外 実習及び学校給食への食 材提供 ・地元の海産物・漁業・漁 法の理解と「我がまち」の 再確認や地元ブランド(し らす)の普及の目的も含 む活動の実施		●	●	●	●	●	●	●	生涯学習センター主 催の事業。 継続して実施してい く。	継続実施	継続実施	継続実施	年1回実施					
		74	清水漁業協同組合	○	しらすを食べる 会	地元ブランド(しらす)の 普及	●	●	●	●	●	●	●	●	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	年1回実施					
		75	水産振興課 清水漁業協同組合		用宗漁港まつり	・水産物、加工品の試食、 販売(生しらす、釜揚げし らす等) ・水産物を使った料理の 販売(しらす丼) ・体験乗船 ・模擬せり など	●	●	●	●	●	●	●	●	天候により漁に出ら れないときは、しらす の提供が困難となる。	継続実施	継続実施	継続実施。	5月に実施予定					
		76	清水みなと 振興課		清水港マグロまつり	・「清水は毎日がマグロまつり」をキャッチフレーズに周年事業を展開するほか、メインイベントである「清水港マグロまつり」を実施し、清水港マグロをPRする。 ・中部横断自動車道沿線市町村でのイベントPRを実施する。	●	●	●	●	●	●	●	●	・清水港はマグロ水揚げ量、家庭での消費量がともに日本一の「マグロのまち」である。 ・清水港マグロの更なる認知度向上のため、継続してイベントPRが必要である。	・清水港マグロまつり実行委員会と連携し、イベントによるPRを展開する。	清水港マグロまつりへの来場者数60,000人	・清水港マグロまつり実行委員会と連携し、イベントによるPRを展開する。	清水港マグロまつりへの来場者数60,000人					
		77	観光政策課		ガストロノミーウォーキング事業補助金	静岡市内において地域食材を活用した本市ならではのグルメを提供することと観光客の誘致を図るウォーキングイベントを実施する団体に対し、補助金を交付する	●	●	●	●	●	●	●	●	補助制度の認知度の低さ	小規模実施から徐々に参加者を増やし、補助金がなくとも事業が実施できるよう自立化を促す	静岡市内のいたるところでガストロノミーツーリズムに関連するイベントが開催されている	市内3カ所でガストロノミーウォーキングを実施する	—					

A	B	C	D	E	F	G	H							I	J	K	L	M	N	O	P		Q		R
基本施策	主な目標	事業番号	課名 団体名	事業の概要			対象者(●:本人 ◎:保護者)							第4次計画策定時の状況			令和6年度事業計画		令和6年度事業実績			令和7年度事業計画			
				重点 事業	事業名	事業内容	0 5 歳	6 5 1 1 歳	1 2 5 1 9 歳	2 0 5 2 9 歳	3 0 5 3 9 歳	4 0 5 4 9 歳	5 0 5 5 9 歳	6 0 5 6 9 歳	7 0 歳 以上	現状・課題	令和6～12年度の 取組の方向性	令和12年度末目標値	取組方針	実施計画 (評価指標)	実績 (成果)	評価	評価の理由と課題	取組方針	実施計画 (評価指標)
(9) 農林漁業生産者と消費者との交流	○農林漁業体験をしたことがある市民の割合の増加	78	静岡市農業協同組合	○	生消費言倶楽部	・生産者と消費者による農作業や加工品作りの実施 ・意見交換	●	●	●	●	●	●	●	●	大豆やサツマイモのつるさしから収穫まで、一連の農作業を行う。人気もあるが、女性部の高齢化に伴いやり方を変える時期に来ている。	生産者の体力が続く限り開催する。	年間7回開催。 参加者200人目標。	農産物の栽培から収穫を通して、生産者と消費者が意見交換し、農業への理解を深め、地産地消を推進する。	年間7回開催。 参加者200人目標。						
		79	農業政策課		アグリチャレンジパーク蒲原活用事業	・市民に対する農業啓発 ・市民対象の農業体験イベントの実施(野菜の苗植え、収穫等)	●	●	●	●	●	●	●	●	毎回多くの家族連れが参加し賑わっているが、作物の成長が天候に左右されるため、作物管理等に課題が残る。また、イベントを単なる体験で終わらせるのではなく、新規就農者の確保につなげていく必要がある。	農業への理解を促進するため苗植え及び栽培体験を実施する。	年間2回(苗植え・栽培)以上の体験イベントを実施。参加者50名以上。	農業への理解を促進するため苗植え及び栽培体験を実施する。	年間2回(苗植え・栽培)以上の体験イベントを実施。参加者50名以上。						
		80	森林政策課		親子しいたけ種駒打ち教室	原木椎茸生産者の指導による親子の椎茸種駒打ち体験	●◎	●◎							原木椎茸生産者の減少 後継者不足	体験教室で、消費拡大・地産地消につながるPR的要素を盛り込む	年1回 40人	体験教室において、きのこの等の消費拡大・地産地消につながるようにPRを行う。	年1回 40人						
		81	静岡市農業協同組合		親子食農体験「ソレイユくらぶ」	・小学生の親子を対象とした食農教育講座 ・農業体験、調理実習、施設見学	●◎	●◎							毎年開催しているのですが内容がマンネリ化している。開催方法見直しを検討。 対応する職員が減っている。	年間4回程度開催。	継続開催。	農業や野菜、食のことなどを知って・学んでもらう。地産地消推進。	年間4回実施予定。 ・ソーセージづくり ・ハネ餅づくり ・ミカン収穫体験 ・お正月飾りづくり						
		82	静岡市農業協同組合		出張加工品づくり教室	幼稚園、保育園、学校に「出向く授業」として、大豆、米等の農産物の加工全般について実施	●	●	●						小学校やこども園の依頼で開催。担当の先生により開催回数が変わる。対応する職員が減っている。	学校やこども園の依頼があれば開催。	継続開催。	依頼があれば開催をする。	小学校から(米作り・餅つき等)の依頼有り。今後他に依頼があれば開催をする。						
		83	静岡市農業協同組合		農業体験教育事業	親子(未就学児含む)、小中学校の児童生徒などを対象に農作物の栽培・収穫体験を実施	●◎	●	●						人気の体験で、参加者は多いが、学校・こども園の依頼も多く、園場の確保が難しい。対応する職員も減っている。	例年通り開催予定。	継続開催。地産地消。地元の農産物のPR。	依頼があれば開催をする。	サツマイモ栽培、米作り、イチゴ栽培など依頼有り。今後他に依頼があれば開催をする。						
		84	清水農業協同組合		出前講座	地域の小中学校、高等学校へ出向き、農業に係る授業、講座を実施	●	●							依頼のあった小中学校・障害者施設・高校にて野菜栽培や収穫体験を実施。	依頼により実施。	依頼により実施。	依頼により実施。	—						
85	清水農業協同組合		農業体験教育事業	親子(未就学児含む)、小中学校の児童生徒などを対象に農作物の栽培・収穫体験を実施	●◎	●	●							こども園、小学校にて野菜栽培や収穫体験、リース作り等を実施。	依頼により実施。	依頼により実施。	依頼により実施。	—							

A	B	C	D	E	F	G	H								I	J	K	L	M	N	O	P	Q		R
基本 施策	主 な 目 標	事 業 番 号	課 名 団 体 名	事 業 の 概 要			対象者(●:本人 ◎:保護者)								第4次計画策定時の状況			令和6年度事業計画		令和6年度事業実績			令和7年度事業計画		
				重点 事業	事業名	事業内容	0 5 歳	6 5 1 1 歳	1 2 5 1 9 歳	2 0 5 2 9 歳	3 0 5 3 9 歳	4 0 5 4 9 歳	5 0 5 5 9 歳	6 0 5 6 9 歳	7 0 歳 以上	現 状・課 題	令和6～12年度の 取組の方向性	令和12年度末目標値	取組方針	実施計画 (評価指標)	実績 (成果)	評 価	評価の理由と課題	取組方針	実施計画 (評価指標)
		86	静岡市私立幼稚園連合会		体験学習	野菜作りと収穫、田植えや稲刈り等を実施する	●								栽培への興味を深め、収穫時の喜びを感じることができた	継続して様々な野菜の栽培・収穫をし食に関する興味を広げていく	栽培・収穫は10件以上	継続して様々な野菜の栽培・収穫をし食に関する興味を広げていく	通年を通し季節の野菜作りを子供たちと一緒に考え、楽しむ						
		87	水産振興課		しずまえ漁業体験ツアー	小中学生とその親を対象に、市内で行われる漁業(桜えび漁、しらす漁、定置網漁など)や罾りの様子、水産加工工場の見学会を実施	●◎	◎							しずまえで行われている漁業を実際に見学することで、水産業への興味・関心を得ることができている。	引き続き、多くの市民の皆さんに、「しずまえ」の漁業を知ってもらうため、漁業見学ツアーを実施する。	参加者30人	引き続き、多くの市民の皆さんに、「しずまえ」の漁業を知ってもらうため、漁業見学ツアーを実施する。	参加者30人						
		88	清水漁業協同組合		タタミ干し作り体験と体験乗船	地元の海産物・漁業・漁法の理解と「我がまち」の再確認や地元ブランド(しらす)の普及の目的も含む活動の実施	●	●	●	●	●	●			継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	年1回実施						

A	B	C	D	E	F	G	H							I	J	K	L	M	N	O	P		Q		R	
基本 施策	主な 目標	事業 番号	課名 団体名	事 業 の 概 要			対象者(●:本人 ◎:保護者)							第4次計画策定時の状況			令和6年度事業計画		令和6年度事業実績			令和7年度事業計画				
				重点 事業	事業名	事業内容	0 5 歳	6 5 1 1 歳	1 2 5 1 9 歳	2 0 5 2 9 歳	3 0 5 3 9 歳	4 0 5 4 9 歳	5 0 5 5 9 歳	6 0 5 6 9 歳	7 0 歳 以上	現状・課題	令和6～12年度の 取組の方向性	令和12年度末目標値	取組方針	実施計画 (評価指標)	実績 (成果)	評価	評価の理由と課題	取組方針		実施計画 (評価指標)
(10)食文化の継承	○茶地域から家庭で受け継がれた緑茶を飲んだ市民の割合の増加	89	健康づくり推進課	○	食育応援団	食育に関する知識や経験を持っている個人、団体、企業を応援団として登録し、食育に取り組む市民からの依頼により、その内容にあった応援団を紹介する	●	●	●	●	●	●	●	●	応援団講師の数が年々減少傾向にあり、一部の講師に負担がかかる場合がある。応援団講師数を増やしていくことが課題である。	応援団の活動についてはSNS等を利用して周知する。応援団講師の増加に向けて民間事業者等を中心に働きかけていく。	・食育応援団バンフレットの作成及び配布 ・応援団派遣件数50件	食育応援団バンフレットの内容や周知方法等について検討する。	・食育応援団バンフレットの作成及び配布 ・応援団派遣件数50件							
		90	静岡県調理師協会		食文化・食育普及啓発	郷土料理や地元食材を調理する機会を充実し、普及啓発を行う(対象:調理従事者)				●	●	●	●	●	計画通り地元食材を使用してレシピを開発し、普及活動を行う事が出来た。	現状維持	現状維持	現状維持	地元の食材を使用した健康料理レシピの開発を行い、県下3か所で健康料理教室の開催を行う。							
		91	静岡県給食協会		調理技術研修会	調理技術研修会(和食、魚調理の研修など)				●	●	●	●	●	今後の開催については検討中	今後の開催については検討中	今後の開催については検討中	開催については検討	未定							
		92	農業政策課	○	お茶の美味しい入れ方教室	小学5・6年生を対象とした、日本茶インストラクターによるお茶の美味しい入れ方と「お茶のまち静岡市」について学ぶ授業を実施		●	●						毎年多くの学校が希望し、実施後の満足度が高い。しかし、事業実施スケジュールとカリキュラムの関係で未実施になってしまう学校もある。	実施を希望しない学校の理由を確認し、スケジュール都合の場合は民間事業者による個別教室を紹介する等、官民連携により実施率を上げる	お茶の美味しい入れ方教室を希望するすべての市内小学校で実施	希望する小学校に日本茶インストラクターを講師として派遣し、お茶の美味しい入れ方教室を実施する。	お茶の美味しい入れ方教室を実施							
		93	静岡市農業協同組合		お茶育	幼稚園、保育園、学校でお茶の手摘みや製造調整作業の体験やお茶の入れ方教室、講習会を実施	●	●	●						各地区で小学校、中学校、こども園の依頼により開催する場合と独自イベントで体験する場合がある。対応する職員が減っている。	学校の依頼があれば開催し、独自の開催も増やしていく。	継続開催。地産地消。地元の農産物のPR。	学校の依頼があれば開催していく。	茶摘み、お茶の淹れ方等依頼有り。							
94	静岡市私立幼稚園連合会		緑茶を飲もう	私立幼稚園が主催するイベント「子育てフェア」で緑茶を提供	●◎									来場者に緑茶を提供することで、地元の特産物に興味を持ち、再認識する機会になった	緑茶のおいしさを実感してもらおう	子育てフェア 毎年1回	緑茶のおいしさを実感してもらおう	来場者に緑茶を提供し、地元の特産物に興味を持つ								

A	B	C	D	E	F	G	H							I	J	K	L	M	N	O	P	Q		R		
基本 施策	主 な 目 標	事 業 番 号	課 名 団 体 名	事 業 の 概 要			対象者(●:本人 ◎:保護者)							第4次計画策定時の状況			令和6年度事業計画		令和6年度事業実績			令和7年度事業計画				
				重点 事業	事業名	事業内容	0 5 歳	6 5 1 1 歳	1 2 5 1 1 歳	2 0 5 2 9 歳	3 0 5 3 9 歳	4 0 5 4 9 歳	5 0 5 5 9 歳	6 0 5 6 9 歳	7 0 歳 以上	現状・課題	令和6～12年度の 取組の方向性	令和12年度末目標値	取組方針	実施計画 (評価指標)	実績 (成果)	評 価	評価の理由と課題	取組方針	実施計画 (評価指標)	
		95	生涯学習推進課		ライフステージに応じた各種食育推進講座	各種料理講座、各種食育講座等	●◎	●◎	●◎	●	●	●	●	●	各生涯学習施設において、男性向け料理講座や高齢者向け栄養講座など、時代のニーズに応じた各種講座を実施している。指定管理制度を用いた多様な講座を実施しており食育講座を実施しない施設があるため目標値の調整が必要。	引き続き、様々な世代を対象に各生涯学習施設において事業を実施する。	全37施設中32施設で、ライフステージに応じた各種食育推進講座を実施	様々な世代を対象に市民のニーズや現代的課題に対応した事業を実施する。	全37施設中32施設で、ライフステージに応じた各種食育推進講座を実施							
		96	中山間地振興課		都市山村交流センターの活用	・自然食作り(朴葉もち、味噌ほか) ・茶摘み体験 ・そば打ち ・野菜収穫体験	●	●	●	●	●	●	●	●	コロナ後の行動変容により、講座自体が減少している。また、人気のある講座は毎回募集人数を上回る申込みがある。一方で募集人数を下回る講座がある。	講座参加者に実施しているアンケートに「今後やってほしい講座」の項目を設ける等、ニーズに合わせた講座や新たな講座を実施していく。	・講座実施数30回以上 ・講座参加者数300人以上	既存の講座に加えてニーズに合わせた講座や新たな講座を開講する。	・講座実施数24回以上 ・講座参加者数240人以上							
		97	静岡市農業協同組合		じまんの「しょく」フェスタ	地元農産物を使った総菜と地域伝統食を味わうイベント	●	●	●	●	●	●	●	●	地元の食材を使い、地産地消をPRしている。衛生面から、やれることが限られてきている。対応する職員が減っている。	JAのPRもかねて毎年1度は開催予定。	年間1回開催。	地産地消。地元の農産物のPR。農産物の消費拡大。	従来の販売形式かSNSを利用したPRが協議の上、いずれかで実施をする。							
		98	健康づくり推進課		食育ボランティア人材養成講座	食に関する知識や技術を講義や調理実習等を通して学び、地域での食に関するボランティア活動につなげる					●	●	●	●	●	食のリカレント教育を普及させ、食育活動への興味・関心を高めることで食に関するボランティア人材の掘り起こしを行う。地域に根付いた幅広い食育活動を行う人材を増やしていくことが課題である。	静岡市食生活改善推進協議会の推進員の養成講座を兼ねており、推進員数が増加することで、活動回数が増え、地域に根ざした食育の推進につなげていく。	食育ボランティア人材養成講座を開催 新規推進員、食育ボランティア人材の確保	地域で活躍する食育ボランティア人材の増加と市と連携して活動する「静岡市食生活改善推進協議会」の推進員数を増やし、市民の食育活動を支援する。	食育ボランティア人材養成講座を開催(全9回) 新規推進員の確保						

第4次静岡市食育推進計画 評価方法について

1. 進行管理の評価について

○各目標別に整理

第3次食育推進計画評価方法

- A 評価：計画目標に対し、80%以上達成
- B 評価：計画目標に対し、50%以上80%未満達成
- C 評価：計画目標に対し、50%未満達成
- D 評価：実施なし



○基本施策別に整理

第4次食育推進計画評価方法

- | | |
|----------------|-----------------------|
| S 評価：期待を上回る | 計画目標に対し、105%以上達成 |
| A 評価：期待どおり | 計画目標に対し、90%以上105%未満達成 |
| B 評価：期待を下回る | 計画目標に対し、70%以上90%未満達成 |
| C 評価：期待を大きく下回る | 計画目標に対し、70%未満達成 |

2. 重点事業実施計画個票の評価について

別紙（案）のとおり

第3次静岡市食育推進計画における重点事業実施計画個票											(参考) 第3次食育推進計画での様式(前様式)			
第3次計画策定時の状況														
事業名		元気で長生き栄養講座												
担当課・団体		各区役所健康支援課												
基本方針		健康長寿世界ーにつながる食育の推進												
基本施策		(4)栄養バランスを考えた食生活の実践												
数値目標		(6)主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている市民の割合70%以上にする												
取組概要		介護予防についての講話、調理実習、試食												
取組目的		健全な食生活の実践 ライフステージにあった食事スタイルの確保												
現状・課題		(現状) 食事バランスを見直すきっかけとなり、また参加者同士の交流の場ともなり、利用者の満足度が高い。 (課題) 会場により参加者にばらつきがあり、またリピーターが多く新規参加者が少ない傾向にある。												
令和4年度事業計画(第3次静岡市食育推進計画)														
目標		令和4年度目標			(学習目標)参加者アンケートより、バランスの取れた食事について理解できたと回答する参加者の割合60%以上。 (行動目標)参加者アンケートより、「今後の生活にバランスのとれた食事を毎食食べることを取り入れたい」と回答する参加者の割合75%以上。 (環境目標)参加者が利用しやすい生涯学習センターや生涯学習交流館等での開催を計画・実施する。 (結果目標)参加者アンケートより、今後の生活に取り入れていきたい項目として、バランスのとれた食事を毎食食べることに回答する参加者の割合65%以上、満足度80%以上。									
		令和5年度結果目標			・主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている参加者の割合70%以上 ・各イベント等でチラシ配布などのPR ・交流館・交流センター等との連携									
令和4年度取組方針					感染症対策のため、参加者による調理実習及び試食を中止した上で、事業を継続していく。加工品等を使った簡単料理を栄養士が実演、展示し、参加者の調理意欲を高める。									
取組内容(予定)					栄養バランスや低栄養予防に関する講話と栄養士による加工品等を使った簡単料理の実演、展示									
評価	令和4年度評価	企画評価			栄養バランスや低栄養予防に関する講話と栄養士による加工品等を使った簡単料理の実演、展示を実施した。感染対策のため試食はしなかったが、参加者の満足度は100%と高かった。									
		経過評価	①事業が計画どおりに実施されたか		計画通り実施できた(年15回)が、会場によっては参加者数は伸び悩んでいる。									
			②参加者は内容を理解し満足したか		講座内容について「バランスのとれた食事について理解できた」と回答する参加者の割合は92%で、目標の60%を上回った。									
			③課題や改善点		調理実習、試食を中止したことで共食という目的は果たせなかったが、栄養士による簡単料理の実演をしたことで、「家でぜひ作ってみたい」という意見があった。									
		影響評価	学習目標が達成されたか		参加者アンケートより、バランスのとれた食事について理解できたと回答する参加者の割合が92%であり、60%を上回った。(昨年度は51.6%)									
			行動目標が達成されたか		参加者アンケートより、「今後の生活にバランスのとれた食事を毎食食べることを取り入れたい」と回答する参加者の割合は66%であり、75%以上を達成できなかった。(昨年度は54.7%)									
			環境目標が達成されたか		生涯学習センターや生涯学習交流館においても計画通り実施できた。									
結果評価			参加者アンケートより、「今後の生活に取り入れていきたい項目として、バランスのとれた食事を毎食食べることに回答する参加者の割合は66%(目標65%以上)、教室の満足度は100%(目標80%以上)と、ともに目標値を上回った。											
令和5年度結果評価					【最終的に達成をねらった目標がどの程度達成できたかを明記してください】									
投入コスト					予算額		65千円		決算額		48千円			
対象者(●は該当、◎は保護者)					0～5歳	6～11歳	12～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	その他(具体的に)
												● (65歳以上)	●	

令和5年度事業計画（第3次静岡市食育推進計画）												
目標	令和5年度目標	学習目標	参加者アンケートより、バランスの取れた食事について理解できたと回答する参加者の割合60%以上。									
		行動目標	参加者アンケートより、「今後の生活にバランスのとれた食事を毎食食べることを取り入れたい」と回答する参加者の割合75%以上。									
		環境目標	参加者数を増やすため、生涯学習施設との共催や地域活動におけるPR活動等を行っていく。									
		結果目標	参加者アンケートより、主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている参加者の割合70%以上。									
	令和5年度結果目標		・主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている参加者の割合70%以上 ・各イベント等でチラシ配布などのPR ・交流館・交流センター等との連携									
令和5年度の実施方針			加工品等を活用した簡単な調理実習、試食を再開し、参加者の調理意欲を高める。									
取組内容（予定）			栄養バランスや低栄養予防に関する講話と、加工品等を使った簡単な調理実習、試食の実施。									
投入コスト			予算額		103 千円		決算額		千円			
対象者（●は該当、○は保護者）			0～5歳	6～11歳	12～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	その他(具体的に)
										● (65歳以上)	●	
平成30～令和5年度の実施の方向性												
方針			継続									
工程	年度	内容	H30	R1	R2		R3		R4		R5	
	計画	講座の開催	◎実施	⇒継続	⇒継続		⇒継続		⇒継続		⇒継続	
	実績	講座の開催	◎	◎	◎		◎		◎			
	凡例	△調査・検討 ○一部実施 ◎実施 ⇒継続 ●実績なし ×中止										
評価指標／年度			H30	R1	R2		R3		R4		R5	
①	講座の開催		年18回開催	年20回開催	年15回開催		年15回開催		年15回開催		年15回開催	
②												
③												
④												
令和3年度事業計画と評価												
令和3年度の実施方針			感染症対策のため、調理実習及び試食を中止した上で、事業を継続していく									
実施計画（評価指標）			年15回実施 低栄養に関する情報提供									
実績（成果）			年11回実施、延べ67人実施 新型コロナウイルスの影響により年15回を年11回に計画を変更して実施した									
評価			A									
評価の理由			新型コロナウイルス感染拡大防止のため、調理実習と試食をとりやめ、家庭での調理の参考となるよう簡単レシピ集を配布した。教室の満足度100%と高かった									
現状と課題			新規参加者が少ない傾向にあり、チラシの見直しや配布先の拡大を検討し、教室をPRする									
投入コスト			予算額		65 千円		決算額		0 千円			

第 4 次静岡市食育推進計画における重点事業実施計画個票（案）								
第 4 次計画策定時の状況								
事業名	元気で長生き栄養講座							
担当課・団体	葵・駿河・清水区役所健康支援課							
基本方針	誰もが生涯健康で心豊かな食生活の実現							
主な基本施策	（１）栄養バランスに配慮した食生活の実現							
主な第 4 次食育推進計画 数値目標	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を１日２回以上ほぼ毎日食べている市民の割合　60%以上							
取組内容	低栄養予防についての講話、簡単な調理実習、試食							
現状・課題	（現状） 参加者アンケートより理解度・満足度が高く、低栄養予防に関する知識の普及につながっている。また試食や調理体験を行うことにより共食の場となっている。 （課題） 参加者の少ない回もあり、参加者の確保が課題である。							
令和12年度末目標値	教室アンケート　参加者の理解度80%以上、満足度80%以上							
令和 6 年度								
事業計画					事業評価			
令和 6 年度取組方針	調理実習と試食を継続して実施することにより、実践につなげ、共食の推進を図る。 参加者数を増やすため、生涯学習施設との共催や地域活動におけるPR活動等を行っている。				達成 できた	達成 できな かった	達成できなかった理由	
取組方針に基づき、事業計画が適切に立てられていたか。					☐	☐		
結果目標（アウトカム）	（達成したいゴールを具体的に示した目標）				☐	☐		
行動目標	（結果目標を達成するための行動に関わる目標）				☐	☐		
環境目標	（行動変容を促すために、どんな環境をどのようにつくるのか）				☐	☐		
学習目標	（行動目標を達成するための知識、スキル、意欲に関わる目標）				☐	☐		
令和 7 年度事業計画								
令和 7 年度取組方針								
結果目標（アウトカム）								
行動目標								
環境目標								
学習目標								
令和 6 ～令和12年度取組について								
計画予定		前期	前期	前期（中間見直し）	後期	後期	後期（アンケート調査）	後期（最終年度）
評価指標／年度		R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
①	講座の開催実績							
②								
③								